

# 第三期中期計画

---

2023年4月～2028年3月

「リーダーシップの共立」

学校法人 共立女子学園

建学の精神

## 女性の自立と自活

女性の社会的地位向上のために、「自活の能力」と「自立した女性として必要な教養」の習得をめざす。

校訓

## 誠実、勤勉、友愛

明治期より、女子教育における必要な徳目のうち、「誠実」、「勤勉」の重要性を掲げ、これを校訓とし、教育の指針にした。第二次世界大戦後、さらに「友愛」を加えられた。このことにより、「誠実、勤勉、友愛」の三つが校訓となり、学園全体を貫く教育の支柱となった。

共立女子大学  
共立女子短期大学  
ビジョン

- ①自律と努力 自己を確立し、生涯努力し続ける
- ②創造とキャリア 新たな価値を創造し、社会を生き抜く
- ③協働とリーダーシップ 他者と協働し、リーダーシップを発揮する

共立女子  
中学高等学校  
ビジョン

時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”を育成する  
どのような場所・場面においても「周囲と協調しながら個性を発揮」しつつ、「自立を志向し、社会に貢献」できる女性の育成を目指す

共立女子第二  
中学校高等学校  
ビジョン

“咲き誇る未来”を目指して、社会に広く貢献できる  
自立した女性を育成する

自然豊かな環境のもと、体験重視の教育で「知る」よろこびと「創る」楽しさを体感し、将来の活躍を見据え、社会に広く貢献できる自立した女性の育成を目指す

共立  
大日坂幼稚園  
ビジョン

子ども達一人ひとりの生きていく力を育む

伸びる力・育つ力・求める心を大切に、明るく健やかで楽しい保育を実現する  
集団生活の中で互いの心にふれあい、自分を確かめ協力のよろこびを培う

共立女子学園  
ビジョン

- ①社会に広く貢献できる自立した人材を育成するための教育を、各設置校において適切に行う
- ②社会に広く貢献できる自立した人材を育成するために、学生・生徒等の支援を適切に行う
- ③教育の永續維持のために、財政基盤を確保し、収支の均衡を達成する
- ④ステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図る



# 目次

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| ■ はじめに                             | 01 |
| ■ 各設置校のビジョン 2032                   | 03 |
| ■ 各設置校の長期目標                        | 04 |
| ■ 共立女子大学・共立女子短期大学<br>評価指標・アクションプラン | 06 |
| ■ 共立女子中学高等学校<br>評価指標・アクションプラン      | 46 |
| ■ 共立女子第二中学校高等学校<br>評価指標・アクションプラン   | 58 |
| ■ 共立大日坂幼稚園<br>評価指標・アクションプラン        | 70 |
| ■ 共立女子学園<br>評価指標・アクションプラン          | 78 |
| ■ 評価指標一覧表                          | 90 |

### ～「リーダーシップの共立」を目指して～

このたび取りまとめた「第三期中期計画」は、2022（令和4）年度までの第二期中期計画の達成状況の点検・評価を踏まえて、今後の10年間を見通して共立女子学園の未来を切り開くために作成した総合施策です。

社会や環境の変化への対応はいつの時代も変わらない重要なテーマですが、今後急速に進んでいく日本社会の少子化の状況を直視するとともに、これからの社会に求められる環境問題やデジタル化、グローバル化などの課題にも適切に対応できる自立した人材を育成するために、学園全体の教育指針として「リーダーシップの共立」を掲げました。本学園が目指すリーダーシップは、「目標を明確に掲げ、共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係をつくることで、目標達成に近づいていく能力」であり、一人ひとりが他者と協働して自分らしいリーダーシップを発揮する全員発揮型のリーダーシップです。このようなリーダーシップを「共立リーダーシップ」と名付けました。

「リーダーシップの共立」を「教育指針・行動指針」として掲げた理由は、本学園の創設の経緯にあります。本学園は「共立女子職業学校」として、1886（明治19）年に34名の発起人により共同で設立されました。「共立」の名称は、この34名の創設者の共同の意思による設立に由来しており、本学園の目指す全員発揮型のリーダーシップの淵源をこの創設時に求めることができるからです。

第三期中期計画の策定にあたっては、「リーダーシップの共立」を踏まえたうえで、それぞれの部門が抱える課題を全教職員が自分ごととして捉え、トップダウン、ミドルアップダウン、ボトムアップを適切に組み合わせ一つひとつの施策を作り上げていきました。

中期計画の構造は、次のようになっています。

- ① 10年後の共立女子大学・共立女子短期大学、共立女子中学高等学校、共立女子第二中学校高等学校及び共立大日坂幼稚園の目指すべき姿を示した「ビジョン2032」
- ② ビジョン2032を達成するための項目ごとの「長期目標」
- ③ 長期目標ごとに5年間の中期計画を示した「評価指標」
- ④ 評価指標の達成のために具体的な活動計画を示した「アクションプラン」
- ⑤ 取り組む委員会・部署を明らかにした責任体制の明確化

不透明で予測不可能な「VUCA」といわれる時代において、急激な環境変化に即応し、新しいアイデアやイノベーションを生み出し、社会や組織を発展させるためには、特定の少数者がリーダーシップを発揮するだけではなく、一人ひとりが主体性を持ち、全員がその場その場に応じて多様な想像力と発想を持ってリーダーシップを発揮することが重要になります。

第三期中期計画の各設置校の「ビジョン2032」には、すべて「リーダーシップ」が入っています。建学の精神の「女性の自立と自活」と「誠実、勤勉、友愛」の校訓に基づいて各学校でリーダーシップ教育を充実させ、様々な分野でそれぞれが自分らしいリーダーシップを発揮して活躍できる人材を育て、「共立」と言えば「リーダーシップの共立」として多くの皆様に認めていただけるよう、学園をあげて邁進していきます。

## 教育指針・行動指針

# リーダーシップの共立

共立女子学園は、「女性の自立と自活」、「誠実、勤勉、友愛」という建学の精神と校訓に基づいて、他者と協働して自分らしいリーダーシップを発揮し、社会の様々な分野で活躍できる自立した人材を養成する教育機関を目指します。

## 各設置校ビジョン 2032

### ◆共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン 2032

誰もが「Major in Anything. Minor in Leadership.®」を  
実感できる大学・短期大学

### ◆共立女子中学高等学校ビジョン 2032

誰もが「関わる力」「動く力」「考える力」「解く力」を磨き、  
リーダーシップを発揮して人生を切り拓いていける中学高等学校

### ◆共立女子第二中学校高等学校ビジョン 2032

誰もがセルフリーダーシップを発揮し、  
自分らしい物語を紡げる中学校高等学校

### ◆共立大日坂幼稚園ビジョン 2032

誰もが遊び生活する中で他者を理解し助け合い、  
共に物事を進めていく「リーダーシップの芽」を育むことができる幼稚園

### ◆共立女子学園ビジョン 2032

各設置校がビジョン 2032 を達成するために、  
財政的・人的・物的資源を整え、「リーダーシップの共立」を確立する



## 各設置校 長期目標

### I. 共立女子大学 共立女子短期大学

|                  |    |
|------------------|----|
| I -1. 入学者受入れ     | 7  |
| I -2. 教育・研究      | 11 |
| I -3. 国際化        | 21 |
| I -4. 学生生活       | 23 |
| I -5. 学修支援・授業支援  | 28 |
| I -6. キャリア形成支援   | 31 |
| I -7. 社会連携・貢献    | 35 |
| I -8. ブランディング・広報 | 38 |
| I -9. 内部質保証      | 41 |
| I -10. 管理運営      | 43 |

### II. 共立女子中学高等学校

|                     |    |
|---------------------|----|
| II -1. 入学者受入れ       | 47 |
| II -2. 教育改善・教育の質的向上 | 49 |
| II -3. 生徒指導・進路支援    | 51 |
| II -4. 管理運営         | 54 |

### III. 共立女子第二中学校 高等学校

|                      |    |
|----------------------|----|
| III -1. 入学者受入れ       | 59 |
| III -2. 教育改善・教育の質的向上 | 61 |
| III -3. 生徒支援・進路支援    | 64 |
| III -4. 管理運営         | 67 |

### IV. 共立大日坂幼稚園

|                     |    |
|---------------------|----|
| IV -1. 園児募集・園児確保    | 71 |
| IV -2. 教育改善・教育の質的向上 | 73 |
| IV -3. 保護者との連携・協力   | 75 |
| IV -4. 管理運営         | 76 |

### V. 共立女子学園

|               |    |
|---------------|----|
| V -1. 財政      | 79 |
| V -2. 組織・人材   | 81 |
| V -3. 施設設備    | 85 |
| V -4. 法人ガバナンス | 88 |



# I . 共立女子大学 共立女子短期大学

## I - 1. 入学者受入れ

|                |  |         |     |
|----------------|--|---------|-----|
| 長期目標           | 「リーダーシップの共立」を掲げる共立女子大学・共立女子短期大学のアドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ、公正な入試を実施し、多様な入学者を受け入れる。  |         |     |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①アドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ公正な入学試験を実施する。<br>②共立女子大学は、入学者数を適切に管理し、入学者の質を保持する。<br>③共立女子短期大学は、総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置きながら、一般選抜も含め入学定員を充足する。<br>④共立女子大学大学院は、諸施策を実行して、入学者を増加させる。<br>⑤併設校との連携を深め、共立女子高等学校・共立女子第二高等学校出身者の入学率を上げる。<br>⑥入学前・選抜時・入学後データを分析し、入学者選抜を不断に改善する。 |         |     |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学アドミッション委員会   | 主となる事務局 | 入試課 |

評価指標① アドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ公正な入学試験を実施する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・総合型選抜と公募制推薦の試験科目について、学部によりその差異が十分でない。
- ・2022年度からの高校における新学習指導要領実施に基づき、2025年度入学者を対象とした新しい教育内容への対応が必ずしも十分でない。

#### 【課題】

- ・「リーダーシップの共立」であることが、すべての選抜の評価項目に反映されるようにする。
- ・入試ミスの生じない実施体制を再構築する。

| アクションプラン                                    | 活動の概要                                  |  |              |                     |                           |
|---|--|--|--------------|---------------------|---------------------------|
|   | 2023年度                                 | 2024年度                                 | 2025年度       | 2026年度              | 2027年度                    |
| 1) すべての選抜の評価項目に「共立リーダーシップ」の観点を導入する。         | ・各学部の総合型推薦型選抜の採点基準の見直しと導入検討            | ・総合型選抜新方式の導入検討                         | ・総合型選抜新方式の導入 | ・一般選抜調査書加点の発展的見直し検討 | ・一般選抜でのリーダーシップ観 pointsの導入 |
| 2) 入試ミスの生じない実施体制を構築する。                      | ・入試実施マニュアルの再構築と周知<br>・出題体制の検証          | ・改定したマニュアルの導入<br>・出題体制の構築              | ・検証と更新       |                     |                           |
| 3) 多様な背景を持った受験生を対象とする選抜方式を導入し、多様な入学者を受け入れる。 | ・大学・短期大学の支援可能な条件について検討<br>・入試制度案の立案と導入 | ・当該試験で入学した学生への支援                       | ・検証と更新       |                     |                           |
| 4) 新学習指導要領に基づき入試科目の対応をする。                   | ・学習指導要領変更点の周知<br>・入試問題担当者との協議・調整       | ・新学習指導要領に基づいた入試問題の作成<br>・2025年度一般選抜で出題 | ・検証と更新       |                     |                           |
| 5) 一般選抜における多面的評価を継続的に導入し、多様な入学者を受け入れる。      | ・求める能力の再定義<br>・試験方式・出願書類の検討            | ・新試験方式あるいは出願書類の新規導入                    | ・検証と更新       |                     |                           |

## 評価指標② 共立女子大学は、入学者数を適切に管理し、入学者の質を保持する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・入学定員 1,295 人に対して、あらかじめ設定した入学予定者数を確保している。
- ・一般選抜において、入学者数確保について必ずしも十分な余裕のない学部が生じてきている。
- ・連携校の策定を進めているが、現時点では 2 校に留まっている。

#### 【課題】

- ・年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）の入学者比率をさらに向上させる。
- ・連携校展開施策を積極的に進める。

| アクションプラン                              | 活動の概要  |  |         |         |         |
|---------------------------------------|--|--|---------|---------|---------|
|                                       | 2023 年度  | 2024 年度  | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 入試の WEB 化を進め、戦略的に志願者数確保を目指す。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年内入試 WEB 出願の導入</li> <li>・入学手続の WEB 化について、学内調整を進める</li> <li>・戦略的出願システムの導入を目指し、各社の特長を整理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年内入試 WEB 出願の効果検証</li> <li>・入学手続の完全 WEB 化</li> <li>・戦略的出願システムの導入</li> </ul> | ・検証と更新  |         |         |
| 2) 継続的な志願者を送り出す連携校を増やし、安定的な志願者数を確保する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携校候補を策定し連携協議の開始</li> <li>・連携校との高大連携、入学者の受入れ</li> </ul>  | ・検証と更新   |         |         |         |

## 評価指標③ 共立女子短期大学は、総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置きながら、一般選抜も含め入学定員を充足する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022 年度の共立女子短期大学入学定員充足率は生活科学科 88%、文科 47%と非常に厳しい状況である。

#### 【課題】

- ・年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）において入学定員のさらなる充足策を行う。

| アクションプラン                                   | 活動の概要   |         |         |         |         |
|--|---|---------|---------|---------|---------|
|  | 2023 年度   | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 受験生確保に資する総合型選抜のあり方を年度ごとに検証し、柔軟に制度を改編する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度課題の検証</li> <li>・短期大学進学希望者のニーズを把握し、必要に応じて試験科目の改編を検証</li> </ul>    | ・検証と更新  |         |         |         |
| 2) 新規指定校の拡充により入学者数増加を目指す。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規指定校候補の選定</li> <li>・指定校推薦入学者の定性分析</li> <li>・連携校との継続的な取組</li> </ul> | ・検証と更新  |         |         |         |

## 評価指標④ 共立女子大学大学院は、諸施策を実行して、入学者を増加させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022年度の各研究科の入学者数は、家政学研究科博士前期課程4名、文芸学研究科8名、国際学研究科1名、看護学研究科1名と非常に厳しい状況である。
- ・2022年度は家政学研究科博士後期課程の入学者は0名と非常に厳しい状況である。

#### 【課題】

- ・共立女子大学大学院の特色や魅力について学内生への周知が必ずしも十分ではない。
- ・社会人に十分に対応した入試科目の設定を行う。

| アクションプラン   | 活動の概要   |        |        |        |        |
|--|---|--------|--------|--------|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学大学院への学内進学を強化する。                               | ・大学院への学内進学者増加のための方策について各研究科・学部・科と協議し、実施                       | ・検証と更新 |        |        |        |
| 2) 多様な大学院受験生（一般、内部進学者、社会人、留学生）のニーズに合わせた入試方式・試験科目を導入する。 | ・現行入試方式・試験科目の課題を整理<br>・社会人のように、継続的な学習環境から離れている受験生に対応した試験科目の導入 | ・検証と更新 |        |        |        |

## 評価指標⑤ 併設校との連携を深め、共立女子高等学校、共立女子第二高等学校出身者の入学率を上げる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022年度の併設校からの入学率は、共立女子高等学校17.0%、共立女子第二高等学校44.7%であり、また入学者1,408名のうち併設校生の割合は9.2%である。

#### 【課題】

- ・併設校との高大連携を重ねることで入学率を上昇させ、学園としての一体感のさらなる向上を目指す。

| アクションプラン   | 活動の概要                                      |  |        |        |        |
|--|--|--|--------|--------|--------|
|  | 2023年度                                     | 2024年度   | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 高大連携により、共立女子高等学校・共立女子第二高等学校（共立進学コース）からの進学に最適な入試制度を確立する。 | ・共立女子第二高等学校との協議によりコースのミッションを整理、反映した試験科目の検討 | ・共立女子第二高等学校共立進学コース入試の導入<br>・両校との協議により、指定校・併設高校特別推薦の課題を洗い出し | ・検証と更新 |        |        |

評価指標⑥ 入学前・選抜時・入学後データを分析し、入学者選抜を不断に改善する。

現状と課題

【現状】

・一般選抜、特に全学統一方式の受験者層のデータ分析を行い、ニーズに応じた試験方式・科目の検討を進めているが、必ずしも十分でない。

【課題】

・「入学者選抜の妥当性の検証」として入学後の学修状況や PROG などのデータのさらなる収集・分析を進める。

| アクションプラン  | 活動の概要   |                          |         |         |         |
|---|---|--------------------------|---------|---------|---------|
|   | 2023 年度   | 2024 年度                  | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) データ分析に基づき、一般選抜入試制度の改編を行い恒常的な志願者数確保を目指す。          | ・英語外部試験利用入試や複数科目の併願入試制度などの導入検証                            | ・新規一般選抜方式の導入             | ・検証と更新  |         |         |
| 2) 早期進学意向の高まりを踏まえ、データ分析に基づいて総合型選抜・学校推薦型選抜の拡充・改編を図る。 | ・総合型、公募制、指定校それぞれの課題を整理・共有<br>・改編した公募制推薦の効果的な募集要項への掲載方法を検討 | ・作問体制を構築<br>・新たな公募制推薦を導入 | ・検証と更新  |         |         |

## I - 2. 教育・研究

|                |  |         |                         |
|----------------|--|---------|-------------------------|
| 長期目標           | 各研究科・学部・科で研究活動に基づいた専門的な知識・技能を教授し、所属に関係なく全学生が「共立リーダーシップ」を発揮できるようになる。  |         |                         |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①学修者本位の教育を実現するために、カリキュラム・マネジメントを徹底し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。<br>②教員組織の編成方針に基づき、適正に教員を配置する。<br>③全学教育推進機構は共立女子大学・共立女子短期大学の教育の質を高めるために継続的な改革・改善を推進する。<br>④研究科・学部・科、専門・教養を問わず、学生が「共立リーダーシップ」を身に付け、発揮できる科目を充実させる。<br>⑤各研究科・学部・学科における自己点検・評価をもとに、特色ある教育・研究活動を行う。<br>⑥総合文化研究所を中心として研究活動を支援し、教育への還元を目指す。<br>⑦競争的資金等の外部研究資金を獲得し、研究活動を充実させる。<br>⑧短期大学の社会的要請やニーズを踏まえて、教育課程、教育内容、教育方法の改善・改革を行う。<br>⑨社会的要請や実学教育の伝統を踏まえた、数理・データサイエンス・AI教育を充実させる。<br>⑩英語教育を充実させ、英語によるコミュニケーション力向上やTOEICのスコアアップを図る。 |         |                         |
| 主となる<br>委員会・会議 | 研究科長・学部長・科長会<br>全学教育推進機構<br>総合文化研究所  | 主となる事務局 | 教務課<br>大学企画課<br>教育学術推進課 |

評価指標① 学修者本位の教育を実現するために、カリキュラム・マネジメントを徹底し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。

### 現状と課題

#### 【現状】

・カリキュラム・マネジメントの方針を策定し、2024年度のカリキュラム変更より運用を開始している。

#### 【課題】

・カリキュラム変更之际、学修者本位の全学的・組織的な視点を積極的に導入する。

| アクションプラン                                       | 活動の概要  |        |        |        |        |
|--|--|--------|--------|--------|--------|
|  | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学修者本位のカリキュラム編成の実現のため、カリキュラム・マネジメントの運用を徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>点検、評価、改善、実施のサイクルの確実な遂行</li> <li>学修者本位のカリキュラム実現のための課題の洗い出し</li> <li>カリキュラムの点検・評価に必要な検討資料の活用促進</li> <li>基本科目数に基づく授業科目の検討</li> </ul> |        |        |        |        |



## 評価指標② 教員組織の編成方針に基づき、適正に教員を配置する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・設置科目の種類、数が多いこともあり、専任教員の授業担当比率は、大学約70%、短大約50%、教養・資格科目では約25%となっている。そのうち、非常勤講師のみが担当している科目は、全体で約30%となっている。

#### 【課題】

- ・設置科目の種類、数の整理を進めて専任教員の授業担当比率を高めるとともに、専任教員と非常勤講師との連携や責任体制を整備する。

| アクションプラン   | 活動の概要  |        |   |        |        |
|--|--|--------|---|--------|--------|
|  | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 各学部・科の専門科目及び教養科目の科目数等を整理し、設置科目における教員の責任体制を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学等より情報収集を行い、適正な科目の種類、数の方針の検討、方針案策定</li> <li>・設置科目における責任体制の方針の検討、方針案策定</li> </ul> |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・方針案に基づいた科目の整理、専任教員と非常勤講師との連携、責任体制の導入</li> </ul> |        |        |

## 評価指標③ 全学教育推進機構は共立女子大学・共立女子短期大学の教育の質を高めるために継続的な改革・改善を推進する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022年度に全学教育推進機構及び高等教育開発センター、リーダーシップ教育センターを設置、2023年度に共通教育センターを設置する。

#### 【課題】

- ・機構設置前に実施していた教育の質を高める活動をさらに向上し、機構・センターとして組織的・恒常的に推進するにあたって十分な組織の整備と資源確保を行う。

| アクションプラン                       | 活動の概要  |  |        |        |  |
|--------------------------------|--|--|--------|--------|--|
|                                | 2023年度   | 2024年度   | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度   |
| 1) 機構、各センターの業務を推進するための組織を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の業務を推進する教職員の配置</li> <li>・新組織や新機能に対応する予算整備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構長、センター長、機構員、運営委員を含めた組織整備</li> <li>・機構のスペースの設置</li> </ul> |        |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構の機能に合わせた継続的な改革、改善</li> </ul> |

評価指標④ 研究科・学部・科、専門・教養を問わず、学生が「共立リーダーシップ」を身に付け、発揮できる科目を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2023年度より、教養教育科目において、1年次からリーダーシップ教育を履修できるようにカリキュラムの改編を行うことを決定している。
- ・2024年度より、教養教育科目において、1年次から4年次まで体系的にリーダーシップ教育を受けることができるようにカリキュラムの改編を検討している。

#### 【課題】

- ・教養教育科目において「共立リーダーシップ」を身に付ける科目を拡充する。
- ・リーダーシップ教育の手法を取り入れた授業を教養教育科目以外の科目に拡充する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |  |  |        |        |
|---|--|--|--|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度   | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) リーダーシップ教育の手法を取り入れた科目を拡充する。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマップにおいて、ディプロマ・ポリシーに定める資質、能力のうち、「リーダーシップ」の開発を目指す科目について授業方法の確認、リーダーシップ教育を導入する科目の選出</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップ教育導入科目の実施</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、評価、改善</li> </ul>                                |        |        |
| 2) 教養教育科目の充実を通して、すべての学生が「共立リーダーシップ」を身に付ける科目を受講する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎ゼミナール」「課題解決ワークショップ」のガイドライン更新後の実施結果に関する点検、評価</li> <li>・「現代社会の諸課題」を担当する教員に対するFD実施の点検、評価</li> <li>・2025年度からのカリキュラム変更(リーダーシップ開発に関する科目の必修化)検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度からのカリキュラム変更手続き</li> <li>・2025年度からの必修化に向けた授業準備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップ開発プログラムの必修化開始</li> <li>・点検、評価、改善</li> </ul> |        |        |

評価指標⑤ 各研究科・学部・学科における自己点検・評価をもとに、特色ある教育・研究活動を行う。

### 現状と課題

#### 【家政学研究科】

##### 【現状】

- ・家政学研究科博士前期課程では、各専攻で専門的な教育が行われているが、高度な汎用的能力を培う組織的な教育・研究指導体制が確立されているとはいえない。

##### 【課題】

- ・家政学研究科博士前期課程において、高度な汎用的能力を培う組織的な教育・研究指導体制を確立する。

#### 【家政学部】

##### 【現状】

- ・家政学部全体：建築・デザイン学部が新設されることに伴い、家政学部は被服学科・食物栄養学科・児童学科の3学科編成となる。
- ・被服学科：リーダーシップの自己評価スコアは1年次から3年次で増加は認められるものの、スコア絶対値は1を切っており十分な成長を促せているとは言えない。

- ・食物栄養学科：国家資格の取得が目標である管理栄養士専攻に比べて食物学専攻は学科としてのアイデンティティが希薄である。日々進歩している食品等の分析手法に学科の装備が追い付いていない。
- ・児童学科：高校までの学習の延長で、子どもの保育・教育における学びにおいても既存の知識を受け身的に学ぶ傾向や多様な価値観の中で一つの答えを求めようとするところがある。

#### 【課題】

- ・家政学部：様々な教育活動をソーシャル・インパクトの側面から強く打ち出していく。
- ・被服学科：社会的養成を考慮したPBL型授業強化などによりリーダーシップ教育を充実させる。教育研究に必要な設備を計画的に更新し環境を整備する。
- ・食物栄養学科：主体的な学修を導くために、学修する内容がどのように社会に貢献するのかを学生に積極的に伝え、さらに食物学専攻の学生には、自らが食のエキスパートである意識を高める。
- ・児童学科：児童学に関する専門科目の学問的おもしろさと実践的意味を伝え、積極的に問いを見出し自ら考え探究していく姿勢を持つことが重要である。

### 〔文芸学研究科〕

#### 【現状】

- ・2015年度に三専攻制から一専攻四領域に改組したことで幅広い研究テーマの入学者を受け入れるようになったが定員充足率は平均41%（2017～2022年度）と低い。
- ・学部生向けに開催している大学院説明会の参加者はここ数年増加傾向にある一方で入学までには至らない。
- ・文芸学研究科修了時アンケート（2015年度～）では授業内容には満足しているが研究環境に対する不満度が高い。

#### 【課題】

- ・修士課程での学びのイメージや意義の十分な理解を進める。
- ・大学院生の研究環境を整える。

### 〔文芸学部〕

#### 【現状】

- ・直近3年間で文芸学部の志願者数が減っており、それに伴い倍率が低下している。
- ・入学時に具体的な学修計画を立てられる者が約40%と、他学部・科に比べ低い。

#### 【課題】

- ・学べる分野について、受験生や社会に具体的なイメージが伝わるようにする。
- ・志願者数を上昇に転じさせる。

### 〔国際学研究科 / 国際学部〕

#### 【現状】

- ・コロナ禍以降の国際学系統の受験者の減少のなかで、3つのポリシーの見直しを踏まえたカリキュラムの改編を行い、2023年度から施行される。
- ・現地での学生等との交流を含み、異文化理解におけるリーダーシップの向上に有益な科目「国際事情・フィールドワーク」が、様々な事情により実施件数及びプログラム内容に影響を受けている。
- ・GSEプログラムをはじめとして、独自の取組による特色ある学部学修を打ち出しているが、競合他大学・学部に対する優位性を確保できていない。
- ・2016年度導入以降、GSEプログラムに多くの学部生が参加し、安定化傾向を見せている。（1年次80人前後→3、4年次40人前後）
- ・学修サポートとして大きな効果を上げていた外国人留学生によるEnglish-Speaking TAについては、直近2年はコロナ禍により途絶してしまっている。

#### 【課題】

- ・新カリキュラムの成果について授業アンケート及び必要に応じて独自の指標を設定し、経年的なデータ収集を通して検証、改善を行う。また、訴求力のある学部の特色を打ち出す。
- ・各年度複数の研究旅行を実施することで、多様な異文化交流のあり方を直接体験し、より積極的なリーダーシップ能力を向上させる機会を確保する。
- ・学部の人材養成目的、教育目標に沿った、より訴求力のある「特色」を打ち出し、志願者の増加、安定につなげる。
- ・量的には現状の継続・底上げを目指しつつ、質的な面でGSEプログラムの一層の充実を図るとともに、2022年度中に改訂される専門科目の教育効果と英語力を総合的に把握するための指標にもとづく点検、評価と改善を継続的に行う。

### 〔看護学研究科 / 看護学部〕

#### 【現状】

- ・学生の満足度、並びに標準修業年限卒業率が他学部に比して低い。
- ・多様化する学生の学力や学修習慣に対応した個別性の高い学修支援・国家試験対策支援が十分に展開できていない。
- ・研究科開設以降、入学定員（5人）を充足できていない。

## 【課題】

- ・新設される看護シミュレーションルームの活用、新たな教育プログラムの開発などにより、学生の主体的な学修を促し、学修到達度と学生満足度を向上させる。
- ・新設される看護シミュレーションルームの活用、新たな教育プログラムの開発、新たな資格取得コースの設置などにより、研究科/学部ともに、特色や魅力の明確化と発信を進める。

## 【ビジネス学部】

## 【現状】

- ・学部開設3年目に入り着実に当初の目標を達成しつつある。

## 【課題】

- ・リーダーシップ教育については当初の期待を上回る成果を上げつつあるが、ビジネス基礎4分野についてはデータ分析中心に学生の学力向上に向けた施策を実行する。

## 【建築・デザイン学部】

## 【現状】

- ・2023年4月の学部開設に向けて準備を進めている。

## 【課題】

- ・新学部として学びを深める教育内容を継続的に検討・実行する。

| アクションプラン  | 活動の概要   |   |  |   |        |
|---|---|---|--|---|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度  | 2027年度 |
| 1) [家政学研究科] 家政学に関する専門的能力に加え、高度な汎用的能力を培う組織的かつ学際的な教育・研究(活動)を行い、アセスメントプランを実施して継続的な改善に取り組む。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムを導入し、組織的かつ学際的な教育・研究活動の実施</li> <li>・アセスメントプランを実施して、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力の修得の教育効果及び研究成果を多面的な評価を実施</li> </ul>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的かつ学際的な教育・研究活動を推進</li> <li>・アセスメントプランの実施により浮かび上がったカリキュラムの課題を整理し、必要に応じてカリキュラムを修正</li> <li>・学内外の研究助成制度を活用し、次世代の家政学研究を推進</li> </ul> |   |        |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通科目の開講と研究交流会等の開催により、専攻の枠組みを越えた大学院生、教職員の交流を推進</li> </ul>  |   |  |   |        |
| 2) [家政学部] 家政学部は被服学科・食物栄養学科・児童学科の3学科体制となるため、生活者の視点に立った学問を追求する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から実施している子育て広場「はるにれ」での家政学部全学科の学生ボランティアの成果を検証し、ホームページ、学会、報告会等の活動を報告</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度の活動を継続しつつ、被服学科、食物栄養学科、児童学科の教員の横の連携を強化し、「家政学講座」等の講座や共同研究を行う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの取組を検証し、教育及び研究活動に必要な機器備品の充実を図り、共立リーダーシップの育成を含めた質の高い教育、研究活動ができるように改善する</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの成果を検証し、改善する</li> </ul> |        |
| 3) [家政学部被服学科] リーダーシップ教育を強化し、学科の特色を反映する教育研究環境の充実を図る。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシーに掲げるリーダーシップ能力を養成するために、PBL型授業を強化する</li> <li>・時代の変化に対応したカリキュラムを検討し、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得する学生の育成を目指す</li> <li>・設備や備品等の教育研究基盤を整備して、学科の特色を反映する教育研究を充実させる</li> </ul>  |   |  |   |        |
| 4) [家政学部食物栄養学科] 主体的な学修意欲を高めるべく自らが食のエキスパートであることをより意識させ、共立女子大学と社会との連携を強化し、日々発展する科学技術に適応できるように、学生の学力レベルを充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにおいてさらなる魅力を伝える工夫に努め認知を高める</li> <li>・公的及び民間の資格を調査して取得の可能性を検討し、必要であればカリキュラム変更を検討</li> <li>・資格取得に必要なサポート体制を構築</li> <li>・活躍する卒業生及び食の専門家による講演会を定期的に開催</li> <li>・実験や実習などの教育及び研究に必要な機器の拡充と最新化を図る</li> </ul> |   |  |   |        |

| アクションプラン   | 活動の概要   |  |   |   |        |
|--|---|--|---|---|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度   | 2025年度  | 2026年度  | 2027年度 |
| 5)〔家政学部児童学科〕児童学に関する専門科目を学ぶ楽しさと意義を発見するとともに、現代の子どもや保護者を取り巻く社会状況を理解し、それに対応できる保育者、教育者として貢献できるよう、学生の知識・能力と意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てひろば「はるにれ」を学生の実践的学びの場として活用</li> <li>公立幼稚園、公立保育士及び小学校教員の採用試験に向けた専門的知識及び技能の修得に必要なサポート体制の充実</li> <li>活躍する卒業生及び児童学の専門家による講演会を定期的に開催</li> <li>オープンキャンパスにおいて学科の魅力、児童学に関する専門科目を学ぶ楽しさ・意義を発信</li> <li>アクティブラーニングを積極的に取り入れ、ルーブリックの作成・活用により、学生の知識・能力と意欲を評価</li> <li>実験や実習などの教育及び研究に必要な施設設備及び機器の拡充と最新化を図る</li> </ul> |  |   |   |        |
| 6)〔文芸学研究科〕研究活動の活性化と成果の可視化を促進する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題点を整理、カリキュラムや指導体制を整えると同時に、前年度の状況を検証しつつ積極的な活用を促進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学院生の研究プロファイルを導入</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文データベースの構築</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>点検、評価、見直し</li> </ul>           |        |
| 7)〔文芸学研究科〕研究効率の向上のため、研究に打ち込める環境の充実を目指す。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>機器、備品の充実</li> <li>図書館との連携を検討</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>改善された研究環境の影響を調査</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>定員に見合う大学院スペースの確保</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>改善された研究環境の影響を調査、見直し</li> </ul> |        |
| 8)〔文芸学部〕カリキュラム改定を行う。科目の改廃のみならず「主専攻・副専攻制」(仮称)を導入し「何が学べるか」をわかりやすくする。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学部の教育内容の検討、それに基づく科目の改廃の検討、及び「主専攻・副専攻制」の具体案の策定</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「メジャー・サブメジャープログラム」の実施、及び科目の改廃の具体案の策定</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>改定カリキュラムの実施、運用</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>効果測定、及び妥当性の検討</li> </ul>       |        |
| 9)〔国際学研究科 / 国際学部〕2023年度より導入される学部、研究科の新カリキュラムの効果、成果についてデータ等を用いて検証することによって、必要な改善を実施につなげる。                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度入学者より新カリキュラムを実施するとともに、その効果検証に必要なデータの収集を開始</li> <li>コース・専攻分野制度の見直しを行い、より自覚的な学修を促す改善を計画</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻分野の再編に基づく、「メジャー・サブメジャー制」を実施し、取組を広く周知</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム・制度についての効果検証の継続</li> <li>完成年次を迎えた段階で、具体的な見直しの必要性について検討、準備</li> <li>在校生、卒業・修了生などをロールモデルとして活用しつつ、訴求力と認知度のさらなる向上を図る</li> </ul> |   |        |
| 10)〔国際学部〕「世界にアンテナを張る」を合言葉に、それに対応する新たな試みを入学試験、入学前教育、さらに入学後の学修において実施し、学修意欲の向上と対外的な訴求力の向上を目指す。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ニュース時事能力検定」を入学前教育に導入</li> <li>在学時(1年次、3年次想定)における受験を促すカリキュラムを実施し、その成果を検証</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>総合型選抜や推薦試験において、「ニュース時事能力検定」を推奨資格等に設定</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>点検・評価・改善し、妥当性を検証</li> </ul>  |   |        |
| 11)〔国際学部〕GSEプログラムや留学支援により異文化環境でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>GSEの総合的指標の試行、点検・見直し、TA・LAの拡充を含む教育改善、留学支援、成果の発信、及び取組を広く周知</li> </ul>  |  |   |   |        |



| アクションプラン  | 活動の概要  |   |  |   |   |
|---|--|---|--|---|---|
|   | 2023 年度  | 2024 年度   | 2025 年度  | 2026 年度   | 2027 年度   |
| 12) [看護学研究科 / 看護学部] 受験生の増加を目指し、学部、研究科の魅力を高めるための、新たな資格取得コース設置の検討、準備を行う。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業・在学を対象とした養護教諭、助産師課程、CNS（専門看護師）コース各々のニーズ調査、設置校のヒアリング、実現可能性の検討</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新設する資格取得コースの検討・決定、設置準備の開始</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新設する資格取得コースの設置準備</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>新設する資格取得コースの設置申請</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな資格取得コースの開設</li> </ul> |
| 13) [看護学部] 看護シミュレーションルームの運営・活用を軌道に乗せ、コロナ禍における質の高い実践教育を遂行するとともに、VRシステムやシミュレーションシステム等のさらなる整備を進め、特色ある教育活動として発信していく。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会の設置</li> <li>広報動画の作成・公開</li> <li>先駆的实践校の視察</li> <li>学部開設時に整備したシミュレーター 1 台のアップデート</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>VR システムや新たなシミュレーター導入の検討</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>VR システムや新たなシミュレーター導入</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーション教育プログラムの開発と実施、取組の発信</li> </ul> |   |
| 14) [看護学部] 学生の学力と学修習慣の多様性に対応した新たな教育プログラム、並びに国家試験支援体制を構築・展開することで、学生の学修意欲、主体的学修、学生相互の学び合い、リーダーシップの醸成をはかり、満足度及び標準修業年限卒業率の向上へとつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい教授法等に関する学部 FD の企画・開催</li> <li>学生の学修意欲・視野の広がり等</li> <li>に貢献する講演会やシンポジウムの企画・開催</li> <li>低学年からの正課教育と連動した国試対策支援プログラムの構築</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学部 FD、学生向け講演会等の実施</li> <li>低学年からの正課教育と連動した国試対策支援プログラムの展開</li> <li>特色ある取組の広報活動</li> </ul> |  |   |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の主体性を引き出す授業・リーダーシップ開発につながる教育プログラムの開発と実施</li> </ul>  |   |  |   |   |
| 15) [ビジネス学部] 2024 年度より基礎 4 分野の教育をより効果的なものとする新カリキュラムを実行する。特に「定性的・定量的情報の分析とマネジメント」能力の向上に重点を置く。                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムの策定、それに伴った教員組織の編成。その中で情報分野等の科目増や教員組織の検討</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムに沿った教員組織による教育の開始</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実行結果の自己点検と一段の改善作業の準備</li> </ul> |   |   |
| 16) [建築・デザイン学部] 学びを広く深く身に付ける施策を検討・実行する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて学外講師を招いたシンポジウムを開催し、広い知見を身に付ける機会創出</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>2023 年度開催のシンポジウム等、教育内容の振り返りを行い、継続的に学びを広く深く見つける施策を検討・実行</li> </ul>                        |  |   |   |

## 評価指標⑥ 総合文化研究所を中心として研究活動を支援し、教育への還元を目指す。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・総合文化研究所は共立女子大学・共立女子短期大学の研究機関として規則で位置づけられているが、現状は研究、出版等助成に関する活動を行っている。

#### 【課題】

- ・自己点検・評価結果を踏まえた研究活動の活性化に向けて組織的に取り組む。
- ・総合文化研究所における研究助成を活性化する。
- ・教育への還元を目指すための研究環境の整備を進める。

| アクションプラン                                  | 活動の概要  |   |  |        |        |
|---|--|---|--|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 研究活動推進、支援組織として総合文化研究所の活動を行う。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の洗い出し（教員へのアンケートの実施等）</li> <li>・プロジェクト研究等の研究活動プログラムの導入検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規程改定</li> <li>・活動環境の検討、改善</li> <li>・研究プログラムの募集</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、評価、見直し</li> </ul> |        |        |
| 2) 研究活動の自己点検・評価の観点として研究活動報告書や教員研究業績を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動報告書、教員業績について検討</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな方式での研究活動報告、教員業績入力の実施</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、評価、見直し</li> </ul> |        |        |

## 評価指標⑦ 競争的資金等の外部研究資金を獲得し、研究活動を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・外部資金による研究については執行に係る事務作業と応募申請業務を中心として行っている。
- ・予算執行等各種手続きは学内予算に準じている。

#### 【課題】

- ・競争的資金を含め、外部資金による研究活動を推進する。
- ・若手研究者の育成に努める。
- ・学内外への広報活動を進める。

| アクションプラン                       | 活動の概要  |   |        |        |        |
|--------------------------------|--|---|--------|--------|--------|
|                                | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 競争的研究を含めた外部研究活動への支援体制を充実する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部支援プログラムを活用し、若手研究者を育成</li> <li>・各種制度、環境の整備に向け課題の洗い出し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの実施と結果の検証</li> <li>・制度の改善、規程等の整備、運営</li> </ul> |        |        |        |
| 2) 学内外への広報活動を行い、研究推進を図る。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公募情報について学内者向けホームページの作成と公開</li> <li>・説明会の実施</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開内容の更新、研究者の求める情報の収集</li> </ul>                     |        |        |        |

評価指標⑧ 短期大学の社会的要請やニーズを踏まえて、教育課程、教育内容、教育方法の改善・改革を行う。

現状と課題

【現状】

- ・2021年度より、学長の下に「短期大学活性化プロジェクト」を発足し、短期大学教員と職員で改善・改革を行っている。
- ・2023年度より、生活科学科、文科ともに、コース及びカリキュラムの改編を行うことを決定し、生活科学科では、2024年度より2コース制への改編と独自性の高い専門教育（情報、環境、メディア、デザイン、生活）に関するカリキュラム開発を検討している。

【課題】

- ・短期大学を取り巻く社会環境の変化は早く激しい為、常にステークホルダーのニーズを把握し、先見性を持ちながら、不断の改善・改革を続ける。
- ・学力や社会人基礎力の高い学生の能力を伸長させ、遅れている学生を支援する学修体制の整備と学生の進路希望に即した専門教育科目・授業内容を開発・強化、提供する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |   |  |        |        |
|---|--|---|--|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) リーダーシップ教育の発展、資格取得やキャリア教育の充実とともに学外教育活動を推進する。      | ・ニーズを把握、カリキュラム及び授業内容や方法の点検、評価                              | ・教育方法を確立し、授業、共立アカデミー、奨学金制度を連携・連動させた体系的取組の実施及び点検・評価・改善 |  |        |        |
| 2) [生活科学科] 2コース制を活かした専門教育科目・授業内容を検討・強化、充実する。        | ・専門教育科目へのPBL型授業の導入・教育内容・教育方法の検討、教材の開発、機材の配備、施設整備の充実        | ・演習室の活用及び利用率の向上、新設科目での施行、改善点の確認                       | ・新設科目（サイエンスリサーチ演習 ITパスポート活用のためのWS、ソーシャル/フード/プロダクト/ファッション/インテリア各メディア演習等）での施行、改善点の確認 |        |        |
| 3) [文科] コース制を活かした卒業後の進路を見通す専門教育科目、授業内容の開発・強化、充実を図る。 | ・主體的判断を養うPBL型授業とキャリア教育の施行、改善点の確認<br>・自己点検・評価に基づく改善施策の検討と実施 |   |  |        |        |



評価指標⑨ 社会的要請や実学教育の伝統を踏まえた、数理・データサイエンス・AI 教育を充実させる。

現状と課題

【現状】

- ・2022 年度より教養教育科目に「データサイエンスと ICT の基礎」を全学部・科の 1 年次に必修科目として設置している。
- ・2 年次までの教養教育科目で、数理・データサイエンス・AI 教育が終了するカリキュラムがあるが、履修者が少ない。

【課題】

- ・社会的要請に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育の拡充を進める。

| アクションプラン  | 活動の概要   |   |         |         |         |
|---|---|---|---------|---------|---------|
|   | 2023 年度   | 2024 年度   | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 数理・データサイエンス・AI 教育の強化、充実を進める。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「データサイエンスと ICT の基礎」の受講者の学修状況に応じた支援の実施</li> <li>・「情報の分析と活用 B」等、新たなクラスへの PBL 型授業導入の準備</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、評価、改善</li> </ul> |         |         |         |
| 2) 文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(応用基礎レベル)の認定を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入した文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(リテラシーレベル)の検証</li> <li>・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(応用基礎レベル)認定の教育を導入可能な学位プログラムの検討</li> <li>・導入及び認定申請に向けた対応</li> </ul> |   |         |         |         |

評価指標⑩ 英語教育を充実させ、英語によるコミュニケーション力向上や TOEIC のスコアアップを図る。

現状と課題

【現状】

- ・2023 年度より、教養教育科目において英語のコミュニケーション能力と TOEIC のスコアアップを目指す英語プログラム「KEIT (Kyoritsu English Intensive Training)」を導入することを決定している。

【課題】

- ・英語プログラム「KEIT (Kyoritsu English Intensive Training)」への参加者の確保とスコアアップの確実な実現を行う。

| アクションプラン  | 活動の概要  |         |         |         |         |
|---|--|---------|---------|---------|---------|
|   | 2023 年度  | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 英語プログラム「KEIT (Kyoritsu English Intensive Training)」の効果的運用による学生の英語力、学修意欲を向上させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム検討、授業内容及び方法の点検・評価・改善、プログラム参加者増加施策の検討・実施</li> <li>・プログラム参加者の英語能力向上に関する調査及び分析</li> <li>・表彰制度の導入</li> </ul> |         |         |         |         |

## I - 3. 国際化

|                |   |         |       |
|----------------|---|---------|-------|
| 長期目標           | 学生・教職員が国際交流の場において多様性を認め、尊重し合い、「共立リーダーシップ」を発揮できるようにする。   |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①共立女子大学・共立女子短期大学国際交流方針に基づき、組織的な国際交流支援体制や制度を構築する。<br>②共立女子大学・共立女子短期大学への留学生数を増加させる。<br>③共立女子大学・共立女子短期大学からの留学者数を増加させる。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 共立女子大学・共立女子短期大学<br>国際交流委員会  | 主となる事務局 | 学生支援課 |

評価指標① 共立女子大学・共立女子短期大学国際交流方針に基づき、組織的な国際交流支援体制や制度を構築する。

### 現状と課題

#### 【現状】

・学長・副学長の下、国際交流に関する全学的な方向性（共立女子大学・共立女子短期大学国際交流方針）が策定された。

#### 【課題】

・方針を実行し、国際交流活動における活動計画の実現に向けた教職員の意識の醸成や全学的な推進体制を確立する。

| アクションプラン  | 活動の概要   |   |   |        |        |
|---|---|---|---|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 国際交流活動の推進を目的とした、具体的な戦略の立案・検証を行う国際交流センター（仮）を設置する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>関連部署と組織の見直し</li> <li>国際交流センター（仮）の設置検討</li> <li>立案内容の承認、規程整備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流センター（仮）設置</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>留学経験者や留学生を経済的に支援し、学生の留学や国際交流への関心を高める活動を協働して実施</li> </ul> |        |        |

評価指標② 共立女子大学・共立女子短期大学への留学生数を増加させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

・受入留学生数は、2022年度交換留学・特別留学生6名、私費外国人留学生26名、合計32名である。

#### 【課題】

・留学生に対し共立女子大学・共立女子短期大学の教育プログラムを周知するとともに、留学生の受入人数の現実的かつ適切な数値目標を設定する。

| アクションプラン              | 活動の概要  |   |  |        |        |
|-----------------------|--|---|--|--------|--------|
|                       | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 受入留学生数を総数100人ににする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>留学生受入に必要な広報活動の調査研究</li> <li>交換留学生の受入枠を増加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>WEBサイトの留学生向け情報を改善し掲載</li> <li>JASSO日本留学フェア参加機関として申請</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部団体留学生向けWEBサイトへ情報を掲載</li> <li>JASSO主催日本留学フェア参加機関として広報活動</li> <li>日本語学校を対象に大学・短期大学の教育内容を周知</li> </ul> |        |        |

評価指標③ 共立女子大学・共立女子短期大学からの留学者数を増加させる。

現状と課題

【現状】

・新型コロナウイルス感染症拡大により、海外へ留学する学生数は、2021年度は1名、2022年度は81名であった。

【課題】

・新型コロナウイルス感染症に適切に対応しつつ、収束後の対応を準備して、海外へ渡航する学生数の増加を図る。

| アクションプラン                                    | 活動の概要   |  |   |        |        |
|---|---|--|---|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度   | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の留学プログラムに参加する学生数を200人にする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学部・科や自己開発の単位認定現状を調査</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>単位制度に関する学内外への周知</li> <li>海外研修や学部・科主催のプログラムの課題を調査</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学部・科と協働したプログラムを企画</li> <li>学内外の広報活動、個別相談体制や利用状況を見直し改善</li> <li>国際交流センター独自の新たなプログラムを企画</li> </ul> |        |        |

大短

中高

二中高

幼稚園

学園

## I - 4. 学生生活

|                |  |         |                |
|----------------|--|---------|----------------|
| 長期目標           | 学生一人ひとりが有意義な学生生活を送ることで、「共立リーダーシップ」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。   |         |                |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①学修行動調査における、学生生活支援の満足度の割合を90%以上にする。<br>②「共立リーダーシップ」を発揮する機会を増やす。<br>③担任（アカデミック・アドバイザー）制度をさらに活用し、学生のサポートを教職協働で行う。<br>④学生生活のダイバーシティ&インクルージョンを推進する。<br>⑤学修行動調査における「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる」の割合を高めるため、積極的なコミュニティ形成支援として正課外活動を充実させる。<br>⑥フィジカルヘルス及びメンタルヘルスに関わる情報提供を行い、支援が必要な学生に対する相談体制・環境を適切に保つ。<br>⑦奨学金など経済的支援を充実させる。<br>⑧学修行動調査における各号館の学生食堂及び本館4階売店の満足度の割合をすべて80%以上にする。<br>⑨「Society5.0」時代に応じた、学生のニーズに対応した快適な学生生活環境を整える。<br>⑩研修センターの利用を促進する。<br>⑪学生の帰属意識を向上させるため、卒業生との連携・交流を充実させる。 |         |                |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学学生委員会  | 主となる事務局 | 学生支援課<br>連携推進課 |

評価指標① 学修行動調査における、学生生活支援の満足度の割合を90%以上にする。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 学修行動調査の1～3年次修了時アンケート／卒業時アンケートにおける学生生活支援満足度は、2018年度が81.6%、2019年度が81.6%、2020年度が81.9%、2021年度が86.5%であった。

#### 【課題】

- 学生の満足度を向上するにあたって、学生のニーズを的確に把握し、適切に対応する。

| アクションプラン                           | 活動の概要  |   |        |        |        |
|------------------------------------|--|---|--------|--------|--------|
|                                    | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 適切な学生支援を行い、学生生活支援満足度を90%以上に高める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生生活ガイド等教職員のサポート体制を周知、サービスの利用促進</li> <li>アンケート調査を行い、改善点の洗い出し、検討を行う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生生活の向上を目的とした「キャンパスライフ BrushUP! プロジェクト(仮称)」を立ち上げ、アンケート調査による改善内容を教職員と学生が協働し、改善</li> </ul> |        |        |        |

## 評価指標② 「共立リーダーシップ」を発揮する機会を増やす。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 公認学生団体の代表者のみにリーダーシップ研修を行っており、参加者は2019年度が69名、2020年度が65名、2021年度が45名であった。

#### 【課題】

- 希望するすべての学生に「共立リーダーシップ」を身に付ける機会であるリーダーシップ研修の受講機会を提供する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |  |        |        |        |
|---|--|--|--------|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度   | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 公認学生団体の代表者のみを対象に行っているリーダーシップ研修を、希望するすべての学生に向けて提供し、参加者数を200人以上に増加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の体制を決定</li> <li>研修受講対象者を拡大して実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修受講対象者を拡大して実施</li> </ul> |        |        |        |

## 評価指標③ 担任（アカデミック・アドバイザー）制度をさらに活用し、学生のサポートを教職協働で行う。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 学生の情報が各部署の管理にとどまっており、十分な共有が行われていない。

#### 【課題】

- 全学生のサポート、特に問題を抱えている学生の情報の共有範囲を明確にすることで、サポートの強化を行う。

| アクションプラン                                   | 活動の概要   |   |   |        |        |
|--|---|---|---|--------|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学生プロフィールを利用して適切な情報の共有を行い、能動的な学生支援につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生プロフィールの方針を見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的等の定義づけを行いガイドラインを作成、広報</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>広報、運用状況の確認、改善</li> </ul> |        |        |

## 評価指標④ 学生生活のダイバーシティ&インクルージョンを推進する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 教職員及び学生の多様性への認識が十分でない。

#### 【課題】

- 社会的マイノリティへの理解を深め、すべての教職員と学生が社会の多様性を尊重するための施策を実施する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |        |        |        |        |
|---|--|--------|--------|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 教職員及び学生が他者と互いに認め合う際の一助となるガイドラインを整え個人の人格・思想・習慣に配慮した支援をする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進の宣言を目指す</li> <li>ガイドラインの検討・整備</li> <li>学生教職員を対象としたダイバーシティ&amp;インクルージョンに関する調査を実施</li> <li>学内におけるダイバーシティ&amp;インクルージョン教育に関する実態調査を実施</li> <li>教職員を対象としたダイバーシティ&amp;インクルージョンに関する勉強会を開催</li> <li>学生教職員を対象とした必要な支援の検討・実施</li> </ul> |        |        |        |        |

評価指標⑤ 学修行動調査における「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる」の割合を高めるため、積極的なコミュニティ形成支援として正課外活動を充実させる。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- 学修行動調査の1～3年次修了時アンケート／卒業時アンケートにおける自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる割合は、2018年度89.8%、2019年度91.9%、2020年度91.7%、2021年度91.7%であった。

##### 【課題】

- すべての学生がいつでも頼れる人と場所を用意する。

| アクションプラン               | 活動の概要  |        |        |        |        |
|------------------------|--|--------|--------|--------|--------|
|                        | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学生の孤立を防ぎ、頼れる居場所を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に相談できる相手がいない学生へ個別に連絡をとり、孤立を避ける</li> <li>コミュニティに所属しやすい環境を作り、正課外活動（学内公認団体・共立Stand Up! プロジェクト・ボランティア等）への参加率を向上させる</li> </ul> |        |        |        |        |

評価指標⑥ フィジカルヘルス及びメンタルヘルスに関わる情報提供を行い、支援が必要な学生に対する相談体制・環境を適切に保つ。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- 年2～4回、保健室及び学生相談室より情報発信を行っている。
- 健康診断時の問診表やヒアリングを通じ、心身の支援が必要な学生を抽出している。

##### 【課題】

- 支援が必要な学生の抽出方法を十分に検討する。
- 学生相談室に相談申込を行った学生の即日対応を可能にする。

| アクションプラン                          | 活動の概要  |        |        |        |        |
|-----------------------------------|--|--------|--------|--------|--------|
|                                   | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 支援が必要な学生の早期発見を行い、適切な修学支援を実現する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集を行い、支援が必要な学生の早期抽出方法を検討</li> <li>教職員対象の研修会開催や学生への情報発信</li> <li>組織体制等、修学支援を充実させる環境づくりを行う</li> </ul> |        |        |        |        |

評価指標⑦ 奨学金など経済的支援を充実させる。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- 多くの学生が給付型奨学金の受給ではなく貸与型奨学金を借りている。

##### 【課題】

- 永続的な給付奨学金の仕組みを検討する。

| アクションプラン                   | 活動の概要   |  |        |        |        |
|----------------------------|---|--|--------|--------|--------|
|                            | 2023年度  | 2024年度   | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学生が修学に専念できるよう経済的な支援をする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新規奨学金制度を規程化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生への広報を実施し、制度を運用</li> </ul> |        |        |        |

評価指標⑧ 学修行動調査における各号館の学生食堂及び本館4階売店の満足度の割合をすべて80%以上にする。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- 学修行動調査の1～3年次修了時アンケート／卒業時アンケートにおける学生食堂・売店の満足度は、2018年度68.4%、2019年度75.4%、2020年度83.5%、2021年度84.9%であった。

##### 【課題】

- 授業実施期間中の混雑を解消するとともに、学生の休暇中の売り上げ低迷への対応について検討する。

| アクションプラン        | 活動の概要                                 |        |        |        |        |
|-----------------|---------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                 | 2023年度                                | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学生の満足度向上を図る。 | ・定期的にアンケートを実施して食堂業者と見直しを行い、改善内容を学生に周知 |        |        |        |        |

評価指標⑨ 「Society5.0」時代に応じた、学生のニーズに対応した快適な学生生活環境を整える。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- 新しい社会に適合するよう学びを進めている。

##### 【課題】

- 収集している情報をより有効に学生支援に活かしていく。

| アクションプラン                                 | 活動の概要             |         |        |        |        |
|--|-------------------|---------|--------|--------|--------|
|  | 2023年度            | 2024年度  | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) IRデータやICTを通常時の学生支援や緊急時の安否確認等に有効に活用する。 | ・仕組み、活用方法の検討、体制整備 | ・改善、見直し |        |        |        |

評価指標⑩ 研修センターの利用を促進する。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- コロナ禍に突入する以前も、日数が少ない状況である。

##### 【課題】

- 長期休業期間以外も学生が利用するように、学生の認知度を高める。

| アクションプラン                           | 活動の概要  |        |        |        |        |
|------------------------------------|--|--------|--------|--------|--------|
|                                    | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 研修センターの認知度や利点を媒体で伝え、学生の利用につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が日常的に利用する媒体を通じて広報し、研修センターの認知度を高める</li> <li>研修センターの周知と共に利用促進につながる情報を収集するため、学生へのアンケートを実施</li> <li>学生が参加するイベントを実施し、実施の様子を広報する</li> </ul> |        |        |        |        |

評価指標⑪ 学生の帰属意識を向上させるため、卒業生との連携・交流を充実させる。

現状と課題

【現状】

- ・卒業後の学園との繋がりをイメージしにくい状態である。

【課題】

- ・卒業生、櫻友会との連携をより強化していく。

| アクションプラン   | 活動の概要                 |                     |        |        |        |
|--|-----------------------|---------------------|--------|--------|--------|
|  | 2023年度                | 2024年度              | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 卒業生と在学生の交流により、在学生在が共立女子大学・共立女子短期大学の魅力をより強く感じる機会を作る。 | ・在学生在が卒業生と交流するイベントを実施 | ・実施内容を振り返り、交流の方法を検討 |        |        |        |

大短

中高

一  
中高

幼稚園

学園



## I - 5. 学修支援・授業支援

|                |  |         |         |
|----------------|--|---------|---------|
| 長期目標           | 学修成果や教育成果の可視化の結果を活用した継続的な改善活動により、学生が専門的な知識・技能を活用しながら、「共立リーダーシップ」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。   |         |         |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①研究科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップ教育の学修支援・授業支援を充実させる。<br>②建学の精神及び人材養成目的を達成するために組織的・体系的なFD・SD活動を行う。<br>③学修成果・教育成果を向上させるための環境を整え、制度を構築する。<br>④「Kyoritsu 教学 DX 推進プラン」に基づき、学修方法・教育方法を充実させる。<br>⑤それぞれのカリキュラムに必要な入学前教育及びリメディアル教育を充実させる。 |         |         |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学教育推進機構   | 主となる事務局 | 教育学術推進課 |

評価指標① 研究科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップ教育の学修支援・授業支援を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・リーダーシップ教育センターを設立し、各学部・科等において「共立リーダーシップ」に関する学修成果・教育成果の可視化に基づく学修・授業支援を充実させるための基盤を整備した。

#### 【課題】

- ・各研究科・学部・科、専門・教養において「共立リーダーシップ」育成を意識した授業の実践と評価を浸透させる。
- ・学生が、自らの履修計画、振り返り、キャリアプランの構築等において、「共立リーダーシップ」の育成の観点を十分に意識できるようにする。

| アクションプラン   | 活動の概要  |   |   |   |  |
|--|--|---|---|---|--|
|  | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度  | 2027年度   |
| 1) リーダーシップ教育センターと各学部・科等の連携によるリーダーシップ教育を普及・定着させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「共立リーダーシップ」ガイドラインの策定</li> <li>・各研究科等での実践・評価方針検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインの見直し</li> <li>・各研究科等での実践・評価方針見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインを中心とした全学的な支援体制の見直しと拡充</li> <li>・各研究科等における実践・評価の継続的改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインと全学的支援策の継続的改善</li> <li>・各研究科等における実践の体系化、整理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインと全学的支援策の継続的改善</li> <li>・各研究科等における実践の見直し</li> </ul> |
| 2) 「共立リーダーシップ」に関する学修成果・教育成果可視化データの活用促進する。        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオ活用ガイドの作成と公開</li> <li>・学生説明会の企画実施</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会の継続的実施</li> <li>・活用状況調査企画実施</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会、調査の継続実施</li> <li>・活用状況調査結果に基づくシステムの見直し、改善</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオ及び活用ガイドの改定</li> </ul>                              |  |

## 評価指標② 建学の精神及び人材養成目的を達成するために組織的・体系的なFD・SD活動を行う。

### 現状と課題

#### 【現状】

・教育力の向上を図るために、教育のPDCAサイクルに対応して、共立女子大学・共立女子短期大学の教育改善に必要な知識・スキルの養成や、授業及び履修に関する各種制度の充実を図るための組織的なFD・SD活動を実施している。

#### 【課題】

・学生の学修成果の可視化を教育活動・教育支援活動へ適切に活用させ、「共立リーダーシップ」の育成の充実を図るために、体系的なFD・SD活動を充実させる。

| アクションプラン   | 活動の概要                          |                                     |                          |              |                              |
|--|--------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------|------------------------------|
|  | 2023年度                         | 2024年度                              | 2025年度                   | 2026年度       | 2027年度                       |
| 1) 教育活動・教育支援活動の改善・充実に活用するための、学内の多様なニーズにタイムリーに対応した体系的なFD・SD活動を実施する。 | ・FD・SDガイドマップの作成(現状の課題とニーズの可視化) | ・FD・SDコンテンツの整理・体系化、実施形態の検討(オンデマンド化) | ・全学シンポジウム等の実施による全学的な意見収集 | ・新FD・SD体系の評価 | ・評価結果に基づくガイドマップ及びコンテンツ改定案の検討 |
| 2) 「共立リーダーシップ」を全学の教育活動・教育支援活動に適切に反映するためのFD・SD活動を実施する。              | ・FD・SD活動の企画と実施                 | ・前年度活動内容の点検・評価とその結果のFD・SD活動への反映     |                          |              |                              |

## 評価指標③ 学修成果・教育成果を向上させるための環境を整え、制度を構築する。

### 現状と課題

#### 【現状】

・授業担当教員が科目ごとの授業改善のPDCAを行う活動、環境が整備されている。

#### 【課題】

・アセスメントプランを実施するための仕組みや支援の充実を図る。  
・学生が自身で学びを運営する制度、環境の整備や評価、支援の充実を図る。

| アクションプラン  | 活動の概要               |                                     |                             |                                 |                                |
|---|---------------------|-------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
|   | 2023年度              | 2024年度                              | 2025年度                      | 2026年度                          | 2027年度                         |
| 1) ディプロマ・ポリシーの各観点を個人、学部・科(研究科)、共立女子大学・共立女子短期大学ごとに評価する指針や方法を策定し、支援を行う。 | ・アセスメントプランの実施状況の分析  | ・アセスメントプランの実施に必要なデータを整理し、提供できる体制の構築 | ・アセスメントプランの実施状況を評価する指標の整理   | ・ディプロマ・ポリシーの視点で大学での教育活動、学修活動を評価 | ・ディプロマ・ポリシーを中心とした教育を評価する仕組みを改善 |
| 2) 学生の主体的な学びを促進する環境や情報を提供、評価し、改善する。                                   | ・現状の主体的な学びに関わる取組の整理 | ・学修ポートフォリオの評価                       | ・主体的な学びを促進するための学修ポートフォリオの活用 | ・主体的な学びを促進する環境や活動の設計            | ・主体的な学びを促進する環境の評価              |
| 3) 教育効果を上げるために、教員の指導計画に基づく指導補助者(TA、SA、LA等)が活用できる環境を整備する。              | ・指導補助者制度の構築         | ・指導補助者制度の運用                         | ・指導補助者制度の評価と改善              |                                 |                                |

## 評価指標④ 「Kyoritsu 教学 DX 推進プラン」に基づき、学修方法・教育方法を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・「Kyoritsu 教学 DX 推進プラン」を策定し、学修支援・教育支援の環境整備を行いつつ、教学 DX 推進ワーキングチームを結成して推進プランを実行する体制を整えた。

#### 【課題】

- ・「Kyoritsu 教学 DX 推進プラン」の効果を検証し、教育上のニーズへの適切な対応を図る。

| アクションプラン                                       | 活動の概要  |                                     |   |                                  |         |
|--|--|-------------------------------------|---|----------------------------------|---------|
|  | 2023 年度  | 2024 年度                             | 2025 年度                                     | 2026 年度                          | 2027 年度 |
| 1) ICT を用いた様々な授業デザインの提案と効果検証を行う。               | ・オンライン授業の評価検証と WEB カメラ等を活用した授業デザインの提案          | ・オンライン授業の改善と WEB カメラ等を活用した授業デザインの提案 | ・オンライン授業の在り方の検討と授業外学修時間を含めた授業デザイン見直しの支援     | ・オンライン授業と授業外学修時間を含めた授業デザイン見直しの支援 |         |
| 2) Kyoritsu My パソコンを活用した、いつでもどこでも学修できる環境を整備する。 | ・実施状況調査と課題の把握 (Wi-Fi の強化、電源プラグやモバイルバッテリーの確保など) | ・実施状況調査をもとに改善活動<br>・活用事例の共有         | ・実施状況調査<br>・活用事例の共有<br>・My パソコンを活用した授業設計の支援 |                                  |         |

## 評価指標⑤ それぞれのカリキュラムに必要な入学前教育及びリメディアル教育を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・学部・科ごとに入学前教育を実施し、全学共通のリメディアル講座を開講している。

#### 【課題】

- ・入学前教育及びリメディアル教育を充実させる。

| アクションプラン                                | 活動の概要                                 |                                    |                                       |         |         |
|---|---------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|---------|---------|
|   | 2023 年度                               | 2024 年度                            | 2025 年度                               | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 入学前教育及びリメディアル教育の実施と学修意欲向上の支援体制を構築する。 | ・入学前教育及びリメディアル教育の実施案策定と学修意欲向上の支援体制の検討 | ・入学前教育及びリメディアル教育の実施と学修意欲向上の支援体制の構築 | ・入学前教育及びリメディアル教育の実施と学修意欲向上の支援体制の運用と改善 |         |         |

## I - 6. キャリア形成支援

|                |   |         |       |
|----------------|---|---------|-------|
| 長期目標           | 自己と働くことを関係付け意味付けながら、精神的・職業的・社会的に自立し、社会で「共立リーダーシップ」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。  |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①リーダーシップ教育等、共立女子大学・共立女子短期大学の強みや特徴を活かした正課内外の教職協働によるキャリア形成支援の取組を推進する。<br>②キャリア教育及び就職・進学支援を充実させるための組織体制を整える。<br>③社会変化や企業ニーズを的確に把握する機会の創出と求人を開拓する。<br>④共立女子短期大学においては、教職協働による進学支援を充実させ、進学率を向上させる。<br>⑤キャリア支援に関するコンテンツの利用を促進し、卒業時の学修行動調査における就職・進路支援満足度を向上させる。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学学生委員会   | 主となる事務局 | 学生支援課 |

評価指標① リーダーシップ教育等、共立女子大学・共立女子短期大学の強みや特徴を活かした正課内外の教職協働によるキャリア形成支援の取組を推進する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・早期からのキャリア形成支援に必要な科目はディスカッションやプレゼンテーションなどアウトプットの機会が少なく、理解を定着させる取組は一部の学部・科に留まっている。
- ・内容は多岐にわたっているがシラバス案に基づいた授業運営がなされておらず、キャリア理論が中心で難易度が高く、オンデマンド実施は学生の双方向コミュニケーションが難しい。
- ・共立におけるリーダーシップについて、実際の社会の場でどのように発揮していくべきかを体験できる機会がない。

#### 【課題】

- ・「共立リーダーシップ」を実現するための社会との接続強化と教職協働の体制づくりを進める。
- ・自立と自活を促すための正課と正課外の接続強化と目的意識の共有を図る。

| アクションプラン   | 活動の概要                         |                                |             |        |        |
|--|-------------------------------|--------------------------------|-------------|--------|--------|
|  | 2023年度                        | 2024年度                         | 2025年度      | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 初年次からのキャリア教育プログラムを構築・拡充する。  | ・初年次教育の方針策定及びプログラムの構築と拡充      | ・正課外の取組強化                      | ・正課内外の連動・検証 |        |        |
| 2) リーダーシップ教育のインプットとアウトプットできる機会を創出し、社会人基礎力チェック(PROG)の結果と進路先の関係を分析・活用する。 | ・学生支援メニューの拡充と卒業生との接点拡大による情報収集 | ・リーダーシップ教育の企業周知と在学生向けプログラムとの連携 |             |        |        |
| 3) 正課におけるキャリア教育のシラバス案や運営方法を整理・改善する。                                    | ・授業の実態把握(教員取組、学生満足度)          | ・方針に基づいた効果的な正課の配置検討            | ・授業実施、検証    |        |        |

評価指標② キャリア教育及び就職・進学支援を充実させるための組織体制を整える。

現状と課題

【現状】

- ・キャリアとは入学後の早い段階から行うキャリア教育から就職・進学支援まで一貫して行うことが望ましいが、正課内外との関わりを視野に入れると体制が十分でない。
- ・キャリア教育の取組は各学部によって異なり、教職員の連携及び正課内外における活動が把握しきれていない。
- ・社会や企業との接点拡大の際には個人のネットワークをもとに行うことが多く、全員が共有できる効果的なシステム運用が構築されていない。

【課題】

- ・キャリア教育における学部との連携を推進する。
- ・社会との接点拡大に必要な全員が共有できるシステムを構築する。

| アクションプラン   | 活動の概要   |   |   |  |   |
|--|---|---|---|--|---|
|  | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度   | 2027年度  |
| 1) キャリア支援の目的と方針・役割を明確にした上でキャリアセンター（仮称）を設置する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育との連携による情報整理</li> <li>・キャリア支援グループとキャリアセンター（仮称）における業務の棲み分け整理と役割明確化</li> <li>・規模に応じた人員配置と予算の確保</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアセンター（仮称）の設置と効果検証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育及び就職支援の状況把握</li> <li>・教職員の連携による支援体制の強化</li> </ul> |  |   |
| 2) 教職員との連携及び学部・科におけるキャリアに関する取組を整理・共有する。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部ごとの情報整理、水平展開に向けた準備</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・好事例の水平展開</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・好事例の広報強化</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の精緻化</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・好事例の広報強化</li> </ul> |
| 3) 職員間の環境整備として時間と場所を選ばず、誰もが同じレベルでタイムリーに情報を取得し、シェアできるシステムを導入する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの検討、開発</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの運用開始、情報の蓄積</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の蓄積、活用</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の蓄積、活用、検証</li> </ul> |   |

評価指標③ 社会変化や企業ニーズを的確に把握する機会の創出と求人を開拓する。

現状と課題

【現状】

- ・就職及び内定実績がある企業との接点は拡大しているが、学内企業セミナーなど就職活動を中心とした取組が中心である。
- ・社会や企業との繋がりは直近の卒業生実績や内定学生など学内の繋がりをきっかけとするものが多く、OG実績がないなど全くの新規や業界や経済団体との繋がりは薄い。
- ・職員自身が外部や社会との接点を持つ機会が少なく、社会変化の現状を踏まえて学生に伝える機会や日常的に外部と触れ合って自己研鑽できる機会が少ない。
- ・近年5カ年で都内女子大における就職率は最高7位となっており、支援内容や組織体制を更に充実させる必要がある。

【課題】

- ・就職活動に限らないキャリア形成に資するプログラムを構築するとともに、協力企業を拡充する。
- ・共立女子大学・共立女子短期大学と接点がない業界団体や企業の新規開拓と全学のリソース共有を図る。
- ・職員同士が切磋琢磨し自己研鑽するための環境を整備する。
- ・就職率都内女子大の中で優位に立てるネットワーク構築と環境整備を行う。

| アクションプラン  | 活動の概要                |                   |                   |        |        |
|---|----------------------|-------------------|-------------------|--------|--------|
|   | 2023年度               | 2024年度            | 2025年度            | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 社会や企業ニーズを的確に把握し、就職率都内女子大TOP5入りを目指す。          | ・既存ネットワークの深化、企業の新規開拓 | ・業界団体との連携強化       | ・業界及び企業の新規開拓・実施検証 |        |        |
| 2) 正課内外（インターンシップや各種講座等）の連携や過去に実績がない企業との接点を拡大する。 | ・正課内外の目的整理           | ・業界及び企業の新規開拓・実施検証 |                   |        |        |

評価指標④ 共立女子短期大学においては、教職協働による進学支援を充実させ、進学率を向上させる。

現状と課題

【現状】

- ・進学支援における教職協働の取組は情報発信が中心である。
- ・他大学の進学希望者の学修支援は外部に委託しており、学生の自主性に任せている。
- ・指定校の新規獲得策や既存の指定校担当者との日常的なコミュニケーションは行っていない。

【課題】

- ・教職協働による進学支援を拡充する。
- ・各科の目標に沿った指定校枠を拡大する。

| アクションプラン                      | 活動の概要                  |             |        |        |        |
|-------------------------------|------------------------|-------------|--------|--------|--------|
|                               | 2023年度                 | 2024年度      | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 指定校担当者とのコミュニケーションを強化する。    | ・入試担当者との情報連携           |             |        |        |        |
| 2) 学生のニーズを把握した教職協働の進学支援を実施する。 | ・教職員連携による学生の育成方針スキーム策定 | ・進学支援の実施、検証 |        |        |        |

評価指標⑤ キャリア支援に関するコンテンツの利用を促進し、卒業時の学修行動調査における就職・進路支援満足度を向上させる。

現状と課題

【現状】

- ・キャリア支援グループを利用する学生は限られており、新規で利用する学生が少ない。
- ・講座内容や参加者と学修行動調査との関連付けができていない。

【課題】

- ・キャリア支援グループの活動を可視化し、周知機能を強化する。
- ・講座内容や参加者と学修行動調査結果を関連付けるとともにデータ分析を進める。

| アクションプラン   | 活動の概要                                |                                 |         |         |         |
|--|--------------------------------------|---------------------------------|---------|---------|---------|
|  | 2023 年度                              | 2024 年度                         | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学のキャリア支援の取組における周知を強化するとともに、学修行動調査の結果を反映した講座を運営する。 | ・キャリア支援グループの役割整理と調査分析及び講座運営に向けたテスト展開 | ・SNS を中心とした広報媒体強化と調査結果を反映した講座運営 |         |         |         |

大短

中高

二中高

幼稚園

学園



## I - 7. 社会連携・貢献

|                |  |         |       |
|----------------|--|---------|-------|
| 長期目標           | 教育・研究成果を社会に還元し、社会の発展・SDGsの達成に寄与するとともに、社会連携・貢献活動の中で、学生・教職員が専門的な知識・技能を活用しながら「共立リーダーシップ」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。  |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①社会連携・貢献活動を継続できる組織的な体制を整える。<br>②企業や地域と協働したPBL（課題解決型学修）により、実社会で活かせる「共立リーダーシップ」を身に付ける活動を充実させる。<br>③千代田区及び関係団体等を含む行政との連携も含めて、神保町の発展に寄与する共立女子大学・共立女子短期大学になる。<br>④大学間連携の活動を積極的に展開する。<br>⑤リカレント教育を充実させ、社会人に特化した体系的なプログラムを構築する。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 社会連携センター   | 主となる事務局 | 連携推進課 |

### 評価指標① 社会連携・貢献活動を継続できる組織的な体制を整える。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- ・社会連携センターとして、産業界・自治体・大学等との連携協定を締結し、学部・科をこえた社会連携・貢献に関する取組（正課・正課外）を実施・推進している。
- ・学内の各部署における学外機関等との協定締結等の状況については、それぞれが各部署での個別対応となっている。
- ・社会連携センターの取組に関心を持った高校生が共立女子大学・共立女子短期大学を受験し入学へつながっているケースがある。

##### 【課題】

- ・社会連携センターが全学的な観点に立ち、学内各部署の取組をつなぐハブ的機能をはたすようにする。
- ・社会連携センターの運営を継続できる体制を整えるための人的リソースを整備する。
- ・学内には社会連携活動に関する共通理解・浸透を推進して全学体制を整え、学外にはさらなる入学者確保につながる広報活動を充実させる。

| アクションプラン   | 活動の概要   |        |   |   |        |
|--|---|--------|---|---|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度  | 2026年度  | 2027年度 |
| 1) 社会連携センター及び社会連携センター運営委員会において、学内ニーズと連携先の調整、事業活動のプロデュース等を行える体制を整え、全学的な社会連携・貢献活動のためのハブ的機能の確立を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内各部署での社会連携・貢献への取組に関する実態調査、ニーズの把握、社会連携センター及び運営委員会の在り方について、協議、検討、確立</li> </ul> |        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・構築した体制のもと社会連携センター及び運営委員会の活動を展開</li> </ul> |        |
| 2) 社会連携に関する諸活動について、学内・学外への効果的な情報発信・浸透のための体制を整え、全学をあげての取組とする。                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種報告会や研修会等を通して社会連携活動の役割・在り方等について共通認識を浸透、全学的な体制で取り組める環境を整備</li> </ul>          |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・科、事務局各部署の共通理解に基づき、各種取組を連動</li> <li>・社会連携活動の取組を発信し、アンケート調査等を用いて成果を可視化</li> </ul> |   |        |



## 評価指標② 企業や地域と協働した PBL（課題解決型学修）により、実社会で活かせる「共立リーダーシップ」を身に付ける活動を充実させる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・社会連携センターとして展開している各事業・取組は、連携先（企業・自治体・大学等）や教職員・学生等との間で丁寧に関係性を構築することで実施・推進できている。
- ・地域連携プロジェクトや社会連携プロジェクト等で PBL（課題解決型学修）を取り入れ、実践している。

#### 【課題】

- ・社会連携に係る PBL（課題解決型学修）を通してリーダーシップ教育を浸透・連動させるため、学内の教職員間で全学的に取り組む。
- ・社会連携活動に係る正課・正課外いずれの場においても、「共立リーダーシップ」を発揮できる機会を設ける。
- ・現場目線で、教育・研究や地域社会の状況を把握し、その関係を支援する。
- ・各種プロジェクト事業やフィールドワークを継続的に実施するためには、マンネリ化を避ける工夫（テーマ設定や対象エリア・内容の見直し・変更など）を重ねる。

| アクションプラン  | 活動の概要  |         |   |         |         |
|---|--|---------|---|---------|---------|
|   | 2023 年度  | 2024 年度 | 2025 年度   | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 自治体や企業等と連携して社会課題の解決や人材養成を目指した「地域連携プロジェクト」及び各種「社会連携プロジェクト」等を持続可能な形で実施・拡充・推進し、「共立リーダーシップ」の実践の場とする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携先との緊密な関係性の構築・実施にあたっての検討・適切な支援・展開、成果報告</li> <li>・社会連携に係る PBL やサービ斯拉ーニングの在り方を定義し、教職員間で共通認識とする</li> </ul> |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種取組の質保証と成果の可視化、拡充</li> </ul> |         |         |

## 評価指標③ 千代田区及び関係団体等を含む行政との連携も含めて、神保町の発展に寄与する共立女子大学・共立女子短期大学になる。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・千代田区との間で締結している「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」に基づく取組を実施している。
- ・千代田区や神保町で行われる事業・イベント等への学生・教職員の参画を推進している。

#### 【課題】

- ・千代田区内及び神保町における社会連携・貢献に関する諸活動を通して、共立女子大学・共立女子短期大学の特色を発揮し存在感を継続的に示していく。
- ・地域への貢献を主眼に置き、千代田区・神保町と共立女子大学・共立女子短期大学との相互の発展へ向けた取組をさらに検討し、継続的に実施する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |         |         |         |         |
|---|--|---------|---------|---------|---------|
|   | 2023 年度  | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 千代田区内及び神保町の諸課題をテーマとした「千代田学」等を実施・推進・拡充する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討、構築支援、実施・展開、成果報告</li> </ul>  |         |         |         |         |
| 2) 千代田区役所の各部署及び神保町周辺の町会・商店会・関係団体等との関係性を維持・拡充し、千代田区及び神保町で行われる事業・イベント等で展開されるブース等において、共立女子大学・共立女子短期大学の社会連携活動及び SDGs への取組を積極的に広報する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画への参加、連携関係先・参加イベントの拡大、点検・評価</li> <li>・学内の関連部署との連携強化</li> <li>・対外的な役割分担の整理・拡充（部署間横断）</li> <li>・千代田区・神保町の関係者との意見交換の機会の創出</li> </ul> |         |         |         |         |

## 評価指標④ 大学間連携の活動を積極的に展開する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 千代田区内の徒歩圏内にある近隣5大学・2短期大学の間で千代田区キャンパスコンソーシアムを構成し、大学間連携の取組を推進している。
- 京都女子大学との間で連携協力協定を締結しているほか、協定を未締結の大学とも社会連携に関する取組を実施し積み重ねている。

#### 【課題】

- 大学間の連携を強化し、教育・研究及び正課外活動等の一層の充実と、地域・社会に貢献できる連携活動をより多く実施する。
- 千代田区キャンパスコンソーシアム以外の具体的な大学連携の動きも検討していく。

| アクションプラン   | 活動の概要  |        |  |   |        |
|--|--|--------|--|---|--------|
|  | 2023年度   | 2024年度 | 2025年度   | 2026年度  | 2027年度 |
| 1) 千代田区キャンパスコンソーシアムの学生間・教職員間の連携・交流を深め、教育・研究及び正課外活動の質の向上を図るとともに、地域・社会貢献に繋がる事業活動を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>単位互換、合同ボランティア、共同研究、共同開講授業、大学間職員派遣、地域の児童・生徒への教育支援、公開講座、社会人対象キャリア形成プログラムや、千代田区・千代田区商工連と連携した地域貢献事業の企画等の実施、点検、評価</li> </ul> |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>千代田区キャンパスコンソーシアム中長期計画改正に対応した事業の見直し、点検、評価</li> </ul> |   |        |
| 2) 他大学との大学間連携の可能性について検討・協議できる環境を整え、実施する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>連携・交流事業・協定締結の可能性の追求・検討、協定締結後には実施・点検・評価</li> </ul>   |        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>連携・交流事業の改善・拡大</li> </ul> |        |

## 評価指標⑤ リカレント教育を充実させ、社会人に特化した体系的なプログラムを構築する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 在学生向けの正課外講座について、社会人に向けても広く参加できる仕組みを設けて開講している。
- リカレント教育の具体的な位置づけ（ターゲット層・開講分野・実施体制等）が未確定である。

#### 【課題】

- 「社会人の学び直し」の観点に立った、体系的なプログラムを構築する。
- 社会人学修者に対しても、学修歴を証明する仕組みと適切な運用を求める社会的な要請に応える。

| アクションプラン  | 活動の概要   |   |   |        |        |
|---|---|---|---|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 「社会人の学び直し」の観点に立った、体系的なリカレント教育プログラムを構築するとともに、学修歴を証明する仕組みを導入し、適切に運用する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の正課外講座を含めたリカレント教育プログラム構築の検討及び新規講座の開発・実施へ向けた準備</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>当年度のプログラム実施と点検・評価及び次年度へ向けた改善</li> <li>正課科目と正課外講座の組み合わせによる可能性も含めた体系的なリカレント教育プログラム構築の検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「共立学び直しプログラム」運用開始</li> </ul> |        |        |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「オープンバッジ運用検討 WT」での検討・導入状況を踏まえた、リカレント教育プログラムへの学修歴証明の導入準備</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>リカレント教育プログラムへのオープンバッジの導入・運用・検証・改善</li> <li>履修証明プログラムの導入の可能性の検討</li> </ul>                        |   |        |        |

## I - 8. ブランディング・広報

|                |  |         |       |
|----------------|--|---------|-------|
| 長期目標           | 「リーダーシップの共立」をステークホルダーに発信し、共立女子大学・共立女子短期大学の「ブランド」を確立するとともに、学生募集に係る広報を適切に実施し、志願者の増加に努める。   |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①「リーダーシップの共立」というブランドの社会的認知を高める。<br>②共立女子大学・共立女子短期大学において、一般選抜の志願者数を増やすブランディング・広報を実施する。<br>③共立女子大学・共立女子短期大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の広報を強化する。<br>④併設校、連携校との関係を強化する。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学広報委員会  | 主となる事務局 | 大学企画課 |

評価指標① 「リーダーシップの共立」というブランドの社会的認知を高める。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・「リーダーシップの共立」というブランドが十分に社会的認知を得ていない。

#### 【課題】

- ・社会的認知を高める施策を積極的に実行する。

| アクションプラン                | 活動の概要                         |                      |         |         |         |
|-------------------------|-------------------------------|----------------------|---------|---------|---------|
|                         | 2023 年度                       | 2024 年度              | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 広く社会に向けたメディア施策を実行する。 | ・社会的認知を高める施策実行のための調査と、一部施策の実行 | ・社会的認知を高める為に有効な施策を実行 | ・検証と更新  |         |         |

評価指標② 共立女子大学・共立女子短期大学において、一般選抜の志願者数を増やすブランディング・広報を実施する。

現状と課題

【現状】

- ・第二期中期計画の大学一般選抜の目標は 7,000 人（延べ人数）であったが、2022 年度入試では 4,473 名であった。
- ・第二期中期計画の短期大学一般選抜の目標は 600 人（延べ人数）であったが、2022 年度入試では 275 名であった。

【課題】

- ・大学受験状況が変化中、適切なブランディング・広報を実施し、志願者数を増やす。
- ・各学部・科の特色ある教育に関するブランディング・広報を適切に実施する。

| アクションプラン  | 活動の概要   |  |         |         |         |
|---|---|--|---------|---------|---------|
|   | 2023 年度   | 2024 年度  | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の一般選抜の志願促進につながるブランディング・広報を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜の志願促進施策について、過去の検証を行い、改善しながら実施</li> <li>・各学部・科の特色ある教育について、ブランディング・広報施策を実施</li> <li>・受験生の接触頻度の高い WEB 広報（ホームページ、SNS 等）を強化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証と更新</li> </ul> |         |         |         |

評価指標③ 共立女子大学・共立女子短期大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の広報を強化する。

現状と課題

【現状】

- ・共立女子大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の2022年度入試志願者数は1,071名（延べ人数）であった。
- ・共立女子短期大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の2022年度入試志願者数は103名（延べ人数）であった。

【課題】

- ・共立女子大学・共立女子短期大学において、受験動向を考慮した総合型選抜・学校推薦型選抜の目標や在り方を検討・工夫し、志願者数増を図る。
- ・各学部・科の特色ある教育に関するブランディング・広報を適切に実施する。

| アクションプラン  | 活動の概要   |  |        |        |        |
|---|---|--|--------|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度   | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の総合型選抜・学校推薦型選抜の志願者数を増やすブランディング・広報を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜・学校推薦型選抜の志願促進施策について、過去の検証を行い、改善しながら実施</li> <li>・各学部・科の特色ある教育について、ブランディング・広報施策を実施</li> <li>・受験生の接触頻度の高いWEB広報（ホームページ、SNS等）を強化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証と更新</li> </ul> |        |        |        |

評価指標④ 併設校、連携校との関係を強化する。

現状と課題

【現状】

- ・2022年度の併設校からの入学率は、共立女子高等学校 17.0%、共立女子第二高等学校 44.7%であり、また共立女子大学・共立女子短期大学入学者 1,408名のうち併設校生の割合は9.2%である。
- ・2022年度、連携校締結を開始した。

【課題】

- ・併設校や連携校との関係構築を強化し、年内入試志願者の安定的基盤を構築する。

| アクションプラン  | 活動の概要  |   |  |        |        |
|---|--|---|--|--------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 併設校に対して、共立女子大学・共立女子短期大学の魅力・教育内容について理解を促進する施策を行い志願者数を増加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内広報について併設校と協議し実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証と更新</li> </ul>                |  |        |        |
| 2) 連携校からの志願者数を増加させる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携校との活動内容の基礎づくり</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校にアプローチをはかり、連携校増加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証と更新</li> </ul> |        |        |

## I - 9. 内部質保証

|                |   |         |       |
|----------------|---|---------|-------|
| 長期目標           | 「共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン 2032」をステークホルダーと共に実現するため、種々の活動を継続的に点検・評価し、改善・向上に取り組むとともに、説明責任を果たす。                |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①内部質保証システムを適切に機能させて、種々の活動の質を改善・向上させる。<br>②自己点検・評価を通じた自律的な PDCA サイクルを推進する。<br>③ IR を基盤とした意思決定支援を充実させる。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 全学自己点検・評価委員会  | 主となる事務局 | 大学企画課 |

### 評価指標① 内部質保証システムを適切に機能させて、種々の活動の質を改善・向上させる。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- ・2021 年度より自己点検・評価並びに内部質保証に関する体制を見直した。
- ・組織的な自己点検・評価を実施し、その結果を公表することで、内部質保証の推進と説明責任を果たしている。

##### 【課題】

- ・今後も継続的に自己点検・評価の質的向上を図り、実施結果を共立女子大学・共立女子短期大学の種々の活動の自律的な充実・改善・改革に活用する。

| アクションプラン  | 活動の概要                                   |                            |              |         |         |
|---|---|----------------------------|--------------|---------|---------|
|   | 2023 年度                                 | 2024 年度                    | 2025 年度      | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 教育・研究水準の向上を図り、その設置目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価活動を行い、その結果を共立女子大学・共立女子短期大学の充実・改善・改革に活用し内部質保証を推進する。 | ・自己点検・評価の実施と評価結果の公表及び内部質保証推進状況の点検・評価・改善 |                            |              |         |         |
| 2) 共立女子大学・共立女子短期大学の取組の優れている点や改善を要する点を評価機関による認証評価で確認し、内部質保証を推進する。                                | ・短期大学の認証評価受審<br>・大学の認証評価受審に向けた準備        | ・評価結果を踏まえた改善<br>・大学の認証評価受審 | ・評価結果を踏まえた改善 |         |         |

### 評価指標② 自己点検・評価を通じた自律的な PDCA サイクルを推進する。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- ・2021 年度より外部評価委員会と学生評価委員会を設置し、第三者からの評価を自己点検・評価に取り入れた。
- ・前年度の点検・評価結果を踏まえた学長からの改善指示と改善計画に対する学長裁量経費予算の割り当てを行うサイクルを確立している。

##### 【課題】

- ・全学・学位プログラムレベル間の垂直方向、学位プログラムレベル間・個々の教職員間の水平方向の PDCA サイクルを有効に機能させる。

| アクションプラン   | 活動の概要  |         |         |         |         |
|--|--|---------|---------|---------|---------|
|  | 2023 年度  | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 全学レベル、学位プログラムレベル、授業レベルの PDCA サイクルを推進するとともに、有機的に連携させて、種々の活動の改善・向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究科長・学部長・科長会」を起点として、グッドプラクティスや共通課題、困りごとの積極的な共有、対話や意見交換を通じた相互支援</li> <li>・教学マネジメントを推進する人材育成を目指した SD・FD 活動</li> <li>・「外部評価委員会」「学生評価委員会」と連携して、ステークホルダーからの評価を踏まえた自律的な PDCA サイクルを推進</li> </ul> |         |         |         |         |

### 評価指標③ IR を基盤とした意思決定支援を充実させる。

#### 現状と課題

##### 【現状】

- ・2021年度には、自己点検・評価における点検・評価項目に沿った情報を提供するため「学部カルテ」を作成、QlikSenseを教員にも公開した。
- ・2022年度からは、カリキュラム・マネジメントを推進するにあたり、プログラムレビューを行うためのデータを整備し、提供を行っている。

##### 【課題】

- ・事務局及び自己点検・評価実施委員に公開しているが、部門・部署によって利用に差がある状況を改善する。
- ・社会情勢や共立女子大学・共立女子短期大学を取り巻く状況を確認しながら優先順位付けし、各部門への情報提供とデータに基づく対話を継続することで教育の質向上と改善を図る。

| アクションプラン  | 活動の概要   |        |        |        |        |
|---|---|--------|--------|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) エビデンスベースのマネジメントが行われるように各種情報の可視化・提供を通して意思決定を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外のデータマネジメントを行い、BIツールを通じて可視化・提供</li> <li>・学長執行部や各部門との対話を通じて課題を発見し、将来構想策定や課題解決を支援し、質の改善・向上を目指す</li> <li>・高等教育に関連する知性やデータマネジメントに関する知性を磨き続け、IR機能及び人材の発展・拡大を目指す</li> </ul> |        |        |        |        |

大  
短

中  
高

二  
中  
高

幼  
稚  
園

学  
園



## I -10. 管理運営

|                |  |         |                |
|----------------|--|---------|----------------|
| 長期目標           | 「共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン 2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。                          |         |                |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①学長を中心とした全学的な教学マネジメントを推進する。<br>②共立女子大学・共立女子短期大学の将来構想を検討する。<br>③櫻友会との連携を強化する。 |         |                |
| 主となる<br>委員会・会議 | 研究科長・学部長・科長会   | 主となる事務局 | 大学企画課<br>連携推進課 |

### 評価指標① 学長を中心とした全学的な教学マネジメントを推進する。

#### 現状と課題

##### 【現状】

・学長、副学長、学生部長からなる学長執行部を中心に、全学的な教学マネジメント体制を構築している。

##### 【課題】

・加速する社会的動向の変化を踏まえた改革・改善サイクルを促進する。

| アクションプラン                                 | 活動の概要   |        |        |        |        |
|--|---|--------|--------|--------|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学長を中心とした体制で、戦略的な企画立案、機動的な意思決定及び執行を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的動向を踏まえ、全学的観点による戦略的な企画立案</li> <li>学長を中心とした体制で、迅速な意思決定及び実行</li> </ul> |        |        |        |        |

### 評価指標② 共立女子大学・共立女子短期大学の将来構想を検討する。

#### 現状と課題

##### 【現状】

・グローバル化や少子高齢化、デジタル技術の高度化が進み、大学・短期大学を取り巻く環境は急速に変化している。

##### 【課題】

・学校教育法、私立学校法、設置基準、文教政策、社会的動向等を踏まえつつ、創意工夫に基づき、将来構想を検討し、共立女子大学・共立女子短期大学全体のさらなる活性化を図る。

| アクションプラン                       | 活動の概要   |        |        |        |        |
|--------------------------------|---|--------|--------|--------|--------|
|                                | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の将来の方向性を定める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学の学部・学科、短期大学の科の状況分析、課題整理</li> <li>経営的な観点、社会情勢・社会的要請に応じた大学・短期大学の将来構想の検討</li> </ul> |        |        |        |        |



### 評価指標③ 桜友会との連携を強化する。

#### 現状と課題

##### 【現状】

・卒業生組織である桜友会とは、現在、卒業生情報の管理・共有、在学生への奨学金事業、ホームカミングデー等の卒業生対象イベントの実施等で連携している。

##### 【課題】

・共立女子大学・共立女子短期大学の学生の状況やニーズ、卒業生のニーズについて相互に情報共有するように図る。

| アクションプラン                                      | 活動の概要                  |                   |                     |        |        |
|---|------------------------|-------------------|---------------------|--------|--------|
|   | 2023年度                 | 2024年度            | 2025年度              | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学及び桜友会相互の発展のため、連携・協力関係を強化する。 | ・桜友会との連携に係る具体的方針の検討、決定 | ・桜友会との連携強化策の検討、実行 | ・過年度までの成果の検証と改善策の実行 |        |        |

大短

中高

一  
中高

幼稚園

学園



## Ⅱ. 共立女子中学高等学校

## Ⅱ - 1. 入学者受入れ

|                |   |         |           |
|----------------|---|---------|-----------|
| 長期目標           | 「リーダーシップの共立」を掲げる共立女子中学高等学校の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を明示し、方針に基づいた入試により入学者を受け入れる。                   |         |           |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①アドミッション・ポリシーに基づく入試を実施し、入学定員を充足させる。<br>②データに基づいた戦略的な広報活動の下、十分な入学志願者を獲得し、志願倍率を高め、実受験倍率 2.5 倍以上を維持する。 |         |           |
| 主となる<br>委員会・会議 | 広報部<br>教務部  | 主となる事務局 | 中学高等学校事務室 |

### 評価指標① アドミッション・ポリシーに基づく入試を実施し、入学定員を充足させる。

#### 現状と課題

- ・ 2022 年度にアドミッション・ポリシーを策定した。
- ・ 一般的な 4 科型入試以外に、海外帰国生入試・合科型入試・英語 4 技能型入試を実施し、多彩な学習歴の生徒を受け入れている。
- ・ 各入試入学者の 6 年間の成績推移や進学先について、校内で広く共有されていない。
- ・ 各入試入学者の入学後の学習状況のデータを分析し、その結果を反映した入試問題の作問ができていない。
- ・ 実施する入試のうち、海外帰国生入試における合格者の入学率が低い状況が継続的になっている。

| アクションプラン                       | 活動の概要                        |                        |                        |                     |                    |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------|------------------------|---------------------|--------------------|
|                                | 2023 年度                      | 2024 年度                | 2025 年度                | 2026 年度             | 2027 年度            |
| 1) 受験生に共立女子中学高等学校が期待する生徒像を伝える。 | ・ アドミッション・ポリシーを公表、周知         |                        |                        | ・ スクール・ポリシーの達成状況を検証 |                    |
| 2) アドミッション・ポリシーに基づいた入試を実施する。   | ・ 生徒の定期試験や模試結果を集約し、生徒の傾向を可視化 |                        |                        |                     |                    |
|                                | ・ アドミッション・ポリシーと現行入試制度を検証     | ・ 英語 4 技能型入試及び合科型入試を検討 | ・ 英語 4 技能型入試及び合科型入試を実施 | ・ 海外帰国生入試及び一般入試を検討  | ・ 海外帰国生入試及び一般入試を実施 |

評価指標② データに基づいた戦略的な広報活動の下、十分な入学志願者を獲得し、志願倍率を高め、実受験倍率 2.5 倍以上を維持する。

### 現状と課題

- ・ 受験生減で、志願倍率が低下している。(全入試実受験倍率 2018 年度 4.0 倍、2019 年度 5.1 倍、2020 年度 5.6 倍、2021 年度 4.0 倍、2022 年度 3.5 倍)
- ・ 4 科型入試以外を実施していることが中学受験界で浸透していない。
- ・ 入学定員の多さから、少子化が進む中で実倍率 2 倍を維持することが困難になりつつある。(2 月 1 日入試実受験倍率 2018 年度 3.0 倍、2019 年度 3.5 倍、2020 年度 4.1 倍、2021 年度 3.1 倍、2022 年度 2.5 倍)
- ・ コロナ禍により 2 年続けて校内のイベントが実施できず、「共立ファン」の拡充が困難であった。
- ・ 高学力層の受験生や保護者は「ブランド校」「大学受験に強い学校」「新しい教育の学校」への志向性が高まっている。
- ・ 伝統を大切にしつつ、「リーダーシップ教育」など新しい教育にも積極的な面をアピールする取組を開始した。

| アクションプラン  | 活動の概要                            |                                      |                                |                               |         |
|---|----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---------|
|   | 2023 年度                          | 2024 年度                              | 2025 年度                        | 2026 年度                       | 2027 年度 |
| 1) 「共立リーダーシップ」の理念や教育活動の魅力を伝える。                        | ・ 競合校ホームページや SNS 発信内容を調査         | ・ ホームページのデザイン、掲載内容を検討<br>・ SNS 戦略を検討 | ・ ホームページをリニューアル<br>・ SNS 戦略を開始 | ・ ホームページや SNS での広報活動の効果を検証、改善 |         |
|   | ・ 共立女子中学高等学校の魅力が伝わる受験生対象のイベントを実施 |                                      |                                |                               |         |
|   | ・ 生徒が受験生に「共立リーダーシップ」を語る場を設ける     |                                      |                                |                               |         |
| 2) 受験者層の拡充・拡大し、実受験倍率 2.5 倍以上にする。<br>(※ 2 月 1 日入試にて計測) | ・ 競合校の広報手段を調査                    | ・ 校内公表データを整理                         | ・ 校内データを基にした広報を開始              | ・ 広報活動の効果を検証、改善               |         |
|   | ・ 塾、私立小学校訪問先が知りたい内容を調査           | ・ 塾、私立小学校訪問先からの入学実績を検証               | ・ 入学実績のある塾、私立小学校への新規訪問を開始      |                               |         |

## Ⅱ - 2. 教育改善・教育の質的向上

|                |  |         |           |
|----------------|--|---------|-----------|
| 長期目標           | 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、「共立リーダーシップ」を発揮する人材を養成する。 |         |           |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①カリキュラム・ポリシーの下、カリキュラム・マネジメントを徹底し、グラデュエーション・ポリシーに基づく生徒を育成する。<br>②視野を広げる教育を推進し、全生徒が「共立リーダーシップ」を身に付け発揮する。                 |         |           |
| 主となる<br>委員会・会議 | 教務部<br>国際交流部<br>進路指導部<br>情報システム管理委員会   | 主となる事務局 | 中学高等学校事務室 |

評価指標① カリキュラム・ポリシーの下、カリキュラム・マネジメントを徹底し、グラデュエーション・ポリシーに基づく生徒を育成する。

### 現状と課題

- ・2022年度にグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定した。
- ・教員、生徒及び保護者は、共立女子中学高等学校において校訓に基づく教育がなされていると認識している。
- ・学習方法や環境、生徒自身の課題も多様化し、あらゆる方法での対応の必要がある。
- ・学校活動で蓄積してきたデータを活用し、学習支援体制の構築の必要がある。

| アクションプラン                                 | 活動の概要                           |                                |                             |                       |                                  |
|--|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------------------|
|  | 2023年度                          | 2024年度                         | 2025年度                      | 2026年度                | 2027年度                           |
| 1) ポリシーに基づく、生徒育成、教育課程の編成が実現する。           | ・カリキュラム・ポリシー及びグラデュエーション・ポリシーの公表 | ・カリキュラム及び講座、オンライン学習ツールの検討、検証   |                             | ・スクール・ポリシーの達成状況に関する検証 | ・スクール・ポリシーの達成できる人材を確保するための教育課程実施 |
| 2) 生徒の多様な個性を伸ばす。                         | ・入試類型別での生徒の学習状況を調査              | ・収集したデータに基づき、各教科で学習指導の内容や方法を検討 | ・各教科の分析結果に基づいた学習指導を実施       |                       |                                  |
|  | ・チューターによる新たな学習支援体制を構築           | ・チューターの新体制の学内周知                | ・チューター制度の活用、展開              |                       |                                  |
| 3) 生徒にとって効果的な授業運営を検討、実現する。（生徒数、習熟度分け）    | ・競合校における授業方法を調査                 | ・スクール・ポリシーの実現のための適切な授業方法を検討    | ・スクール・ポリシーの実現のための適切な授業方法を実施 |                       |                                  |
| 4) 教育方法に合わせた環境を整備し、教育効果の向上を図る。           | ・整備検討体制を構築                      | ・整備する環境、効果を検討                  | ・環境整備計画を実施<br>・活用方法を周知      |                       |                                  |
| 5) 教育内容を統一化し、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育を等しく提供する。 |                                 | ・カリキュラム・ポリシーに基づいた、評価基準を点検      | ・評価基準の点検結果に基づく、新評価基準を策定、周知  |                       | ・新評価基準での評価を実施                    |

評価指標② 視野を広げる教育を推進し、全生徒が「共立リーダーシップ」を身に付け発揮する。

現状と課題

- ・課題に対して、他者と協働的に考え、解決を導き出す力（リーダーシップ）を「関わる力」、「動く力」、「考える力」、「解く力」の4つに分け、これを生徒に身に付けてほしい力としている。
- ・2022年度の中学1年生から外部企業と連携した「リーダーシップ教育」を順次導入している。

| アクションプラン                                | 活動の概要  |                          |                         |                 |        |
|---|--|--------------------------|-------------------------|-----------------|--------|
|   | 2023年度   | 2024年度                   | 2025年度                  | 2026年度          | 2027年度 |
| 1)「総合的な探究の時間」の授業構築に当たり、大学・企業・地域と連携を進める。 | ・連携先を調査  | ・連携先候補との交渉、連携を開始         | ・実施状況を検証<br>・連携先の見直しと拡張 |                 |        |
| 2)「総合的な探究の時間」の授業において、「共立リーダーシップ」を育む。    | ・外部企画を実施、検証（中学1年生～高校1年生）<br>・自由選択授業に「共立探究実践」を導入（高校2年生） | ・外部企画を実施（中学1年生～高校1年生）    |                         | ・5年間の成果を基に内容を改善 |        |
|   |  | ・教員独自のプログラムを検討、実施（高校2年生） |                         |                 |        |
|   | ・「共立リーダーシップ」に関する生徒調査を実施                                |                          |                         |                 |        |

## Ⅱ - 3. 生徒指導・進路支援

|                |   |         |           |
|----------------|---|---------|-----------|
| 長期目標           | 学校活動の中で「共立リーダーシップ」を発揮することで自己肯定感を高めながら、志望する進路が実現できるよう、組織的に協働し支援を行う。  |         |           |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①学校活動（部活動、行事含む）の中で自分らしいリーダーシップを発見し、磨いて、発揮できるように指導・支援する。<br>②生徒自身の希望を最優先にしつつ、進路支援を充実させ、第一志望への進学率を高める。<br>③教職員、カウンセラーが保護者と連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた生徒指導をする。<br>④共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携・接続を強化する。 |         |           |
| 主となる<br>委員会・会議 | 教務部<br>進路指導部<br>生活指導部   | 主となる事務局 | 中学高等学校事務室 |

評価指標① 学校活動（部活動、行事含む）の中で自分らしいリーダーシップを発見し、磨いて、発揮できるように指導・支援する。

### 現状と課題

- 学校行事において、準備から振り返りまで大まかな流れを生徒に経験させているが、生徒同士だけで目標に向けて活動するという経験の場を増やす必要がある。
- 生徒同士が目標に向けて活動するための支援体制が整っておらず、教員も「共立リーダーシップ」への理解度を統一化する必要がある。

| アクションプラン                               | 活動の概要   |        |   |  |        |
|--|---|--------|---|--|--------|
|  | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度  | 2026年度   | 2027年度 |
| 1) 生徒会や委員会の運営、行事の企画と運営を生徒主体で行えるよう支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の達成目標を共有</li> <li>生徒同士の関係性を構築</li> <li>中央委員会においてリーダーシップ研修を実施</li> </ul> |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>行事時期、仕事内容の見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動の点検、改善</li> </ul>              |        |
| 2) 生徒のチーム活動に関する教員の指導力、支援力を向上させる。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒活動に対する適切な支援について研修を計画、実践</li> </ul>                                       |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>教員間で事例を共有</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>共有した支援、指導の内容を実践、点検、評価、改善</li> </ul> |        |



## 評価指標② 生徒自身の希望を最優先にしつつ、進路支援を充実させ、第一志望への進学率を高める。

### 現状と課題

- ・近年変化の激しい大学入試に関して、膨大な情報を生徒・保護者が理解しきれしていない。
- ・様々なキャリアに触れる機会を増やし、自身のキャリア形成を具体的に描くことができるよう、進路を明確にする支援を促進させる必要がある。
- ・グローバル教育を推進しているが、海外大学を目指す生徒がまだ少なく、グローバルマインド形成を促進させる必要がある。

| アクションプラン                               | 活動の概要   |                |                         |                      |            |
|--|---|----------------|-------------------------|----------------------|------------|
|  | 2023年度  | 2024年度         | 2025年度                  | 2026年度               | 2027年度     |
| 1) 生徒が自分に合った入試方法で受験できるようにする。           | ・ 詳細な情報を提供しサポート   |                |                         |                      |            |
| 2) 各種データに基づいた適切な進路支援を行う。               | ・ データ分析方法を検討<br>・ 取得データを整理  | ・ 学習と進路の関連性を調査 | ・ 進路支援の計画の見直し、実施        | ・ 学年別の効果的な進路支援を検討、実施 |            |
| 3) 生徒のキャリア形成を促進させ、卒業後の進路を明確にする企画を実行する。 | ・ 生徒と卒業生の交流の場（ホームカミングデー）を検討   |                | ・ 交流の場（ホームカミングデー）を企画、実施 |                      | ・ 実施体制の見直し |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 著名な講師による講演会や、企業や大学訪問を企画、実施</li> <li>・ 大学の入試課員による入試に関するガイダンスを計画</li> </ul>                                  |                |                         |                      |            |
| 4) 海外大学進学希望者に対する支援を強化する。               | ・ 教員の学習会を企画、実施  |                |                         |                      |            |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバルマインドを向上させるガイダンス及びイベントを企画、実施</li> <li>・ 進学希望者に対するフォロー体制を強化</li> <li>・ 海外大学に進学した卒業生との交流の場を構築</li> </ul> |                |                         |                      |            |
| 5) 海外留学に対する支援を行う。                      | ・ 他校の支援状況を調査  | ・ 公的支援の調査、実施   |                         |                      |            |

## 評価指標③ 教職員、カウンセラーが保護者と連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた生徒指導をする。

### 現状と課題

- ・ フィジカルやメンタルにおいて悩みを抱える生徒が多様化し、フォロー体制を強固にする必要がある。
- ・ 教員、養護教諭、カウンセラー同士の連携を高めると同時に、各立場の適切な対応を強化するためスキルアップを図る必要がある。

| アクションプラン                                | 活動の概要  |   |  |   |  |
|---|--|---|--|---|--|
|   | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度   | 2026年度  | 2027年度   |
| 1) フィジカルヘルスやメンタルヘルスに対するフォローを整える。        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談方法、相談場所を検討、改善</li> <li>・ サポート体制を検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サポート体制を運用化</li> <li>・ 相談場所を周知</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に健康に関する最新情報を発信</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者に健康に関する最新情報を発信</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援体制、方法の見直し、改善</li> </ul> |
| 2) 教員、養護教諭、カウンセラーの情報共有方法の徹底やスキル向上を促進する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員、養護教諭、カウンセラー間の情報共有方法を検討、実行</li> </ul>         |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スキルアップ研修を計画、実施</li> </ul>   |   |  |

評価指標④ 共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携・接続を強化する。

現状と課題

- ・共立女子大学・共立女子短期大学との連携を強めることで、大学生活や研究について触れる機会を増やす必要がある。
- ・他大学との連携が不足しており、多様な進路に直接触れる機会が足りていない。
- ・保護者を含め情報提供をする機会を増やす必要がある。

| アクションプラン                           | 活動の概要                          |                        |                                       |                       |        |
|------------------------------------|--------------------------------|------------------------|---------------------------------------|-----------------------|--------|
|                                    | 2023年度                         | 2024年度                 | 2025年度                                | 2026年度                | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の教育研究に触れる機会を増やす。 | ・大学・短期大学との定期的な打ち合わせを開催         | ・模擬授業や出張講義を検討          | ・KWU 高大連携プログラムを充実<br>・卒業生による座談会を計画、実施 | ・大学・短期大学と連携したプログラムを展開 |        |
| 2) 他大学との連携、接続を強化し、多様な進路に触れる機会を増やす。 | ・学校内相談会を開催<br>・高大連携を強化できる大学を調査 | ・生徒のニーズに合わせた出張講義を計画、実施 | ・高大連携協定を促進<br>・保護者を含めた情報提供の機会を拡充      |                       |        |

## Ⅱ - 4. 管理運営

|                |   |         |           |
|----------------|---|---------|-----------|
| 長期目標           | 「共立女子中学高等学校ビジョン 2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。  |         |           |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①生徒・保護者の共立女子中学高等学校に対する満足度を向上させる。<br>②教育課程・学校活動を向上させるため、教員の能力向上の機会拡大や業務効率化を促進させる。<br>③学校運営上の危機管理を適切に行い、生徒の安全を確保する。<br>④学習・教育環境の充実に向けた中長期的な施設設備整備計画を策定する。 |         |           |
| 主となる<br>委員会・会議 | 総務部   | 主となる事務局 | 中学高等学校事務室 |

### 評価指標① 生徒・保護者の共立女子中学高等学校に対する満足度を向上させる。

#### 現状と課題

- ・学校評価結果において生徒満足度が高い活動だが、保護者の満足度が低いものがある。
- ・保護者が必要とする情報や学校として伝えるべき情報を、的確に伝える方法を検討する必要がある。

| アクションプラン                               | 活動の概要   |  |  |        |   |
|--|---|--|--|--------|---|
|  | 2023年度  | 2024年度   | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度  |
| 1) 保護者のニーズに合わせ、学校の取組や学校活動についての情報提供を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の意識調査</li> <li>・保護者アンケート結果を分析</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周知するコンテンツ、内容を精査</li> <li>・コンテンツのフォーマットを作成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校活動の情報発信を計画、展開</li> </ul> |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の既読状況を調査</li> <li>・計画の見直し</li> </ul> |
| 2) 保護者とのコミュニケーションを充実させ、課題把握と改善活動を行う。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との意見交換</li> <li>・保護者からの意見への対応と改善</li> </ul>                                    |  |  |        |   |
| 3) 生徒の自主的な活動を支援する教育環境を整える。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活動状況を調査</li> <li>・必要な支援策を検討</li> <li>・外部施設や人的リソースの活用を含め、必要な環境と教具を整備</li> </ul> |  |  |        |   |

## 評価指標② 教育課程・学校活動を向上させるため、教員の能力向上の機会拡大や業務効率化を促進させる。

### 現状と課題

- ・教育活動に取り組む時間を生み出すため、アウトソーシングやデジタル化を検討することで、業務軽減につなげる必要がある。
- ・新たな学習指導方法に対応し、学習指導の効果を高める必要がある。

| アクションプラン                                 | 活動の概要  |   |   |   |   |
|--|--|---|---|---|---|
|  | 2023年度   | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度  | 2027年度  |
| 1) 教育活動に取り組む時間を増加するため、業務軽減を行う。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務・業務分担の洗い出し</li> <li>・デジタル化を促進</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトソーシングを含めて業務効率化を検討</li> <li>・教務等システムの見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務整理を計画、実行</li> </ul>   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の外部委託の方向性を検討</li> <li>・部活動ごとの精査</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の部活動の外部委託をベンチマーク</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の外部委託を具体的に検討、実行</li> </ul>                                 |   |   |
| 2) 生徒が「共立リーダーシップ」を発揮するため、教職員の支援スキルを向上する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員対象の「リーダーシップ研修」を企画、立案</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員への「リーダーシップ研修」を実施</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルを活かした支援を実践し、教育効果を検証</li> <li>・支援スキルを発揮し、教育効果を検証</li> </ul> |   |   |
| 3) 教育活動へと寄与するため、新たな学習指導方法を学べる研修会を実施する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の能力向上のための研修を周知</li> <li>・研修内容の共有方法を検討</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の能力向上のための研修を計画、参加</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の観点から役職等に応じた研修を紹介</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の観点から役職等に応じた研修を計画、参加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の能力向上のための研修を周知</li> </ul> |

## 評価指標③ 学校運営上の危機管理を適切に行い、生徒の安全を確保する。

### 現状と課題

- ・学校評価にて、防災意識や非常時における対応についての結果が芳しくない。
- ・非常時の対応マニュアルとして整備している「いじめ防止対策 学校マニュアル」「熱中症対策マニュアル」などをより実情に合わせて更新し、多様な問題に対応できる体制を整える必要がある。
- ・コロナ禍においても全校での避難訓練を実施する必要がある。

| アクションプラン  | 活動の概要   |   |   |        |        |
|---|---|---|---|--------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 非常時における対応を教職員間で明確化し共有することで、生徒の心理的安全性を高める。        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時対応を精査</li> <li>・対応マニュアルの見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応マニュアルを周知</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応マニュアルに基づいた訓練を実施</li> <li>・対応マニュアルを修正</li> </ul> |        |        |
| 2) 生徒たちの防災意識を高め、有事の際の対応力を身に付けさせる。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策をしつつ防災訓練を計画、実施</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に提示している「災害発生時の対応」の見直し、展開</li> <li>・防災訓練を実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを修正</li> <li>・防災訓練を実施</li> </ul>             |        |        |
| 3) 災害時の対応を保護者へ周知し理解を得ることによって、有事の際のスムーズな対応ができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の際の対応を周知</li> <li>・帰宅方法を確認</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害発生時の対応（マニュアル）」を周知</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時マニュアルを更新</li> </ul>                            |        |        |

評価指標④ 学習・教育環境の充実に向けた中長期的な施設設備整備計画を策定する。

現状と課題

- ・部活動、委員会活動などの活動場所の狭隘化が課題である。
- ・多様な生徒への丁寧できめ細やかな指導と支援を行う上では施設設備面での充実が必要である。

| アクションプラン                    | 活動の概要                        |        |                               |        |                               |
|-----------------------------|------------------------------|--------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
|                             | 2023年度                       | 2024年度 | 2025年度                        | 2026年度 | 2027年度                        |
| 1) 学習・教育環境を充実させ、学校運営を適切に行う。 | ・学校運営における、施設設備等の課題整理と将来展望を検討 |        | ・将来展望を踏まえた、施設設備等の充実策の検討、提案、調整 |        | ・適切な学校運営を行うための学習、教育環境の整備を順次実施 |



# Ⅲ. 共立女子 第二中学校高等学校

## Ⅲ - 1. 入学者受入れ

|                |  |         |              |
|----------------|--|---------|--------------|
| 長期目標           | 「リーダーシップの共立」を掲げる共立女子第二中学高等学校の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を発信し、生徒募集に関わる広報を適切に実施し、多様な入試により入学者を受け入れる。                      |         |              |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①入学定員の確保を目指し、着実に入学者数を増加させる。<br>②受験者層を拡充するために、「リーダーシップの共立」を核とした戦略的な広報を行う。<br>③奨学金制度の活用・検証を行い、学力、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒を確保する。 |         |              |
| 主となる<br>委員会・会議 | 二中高将来構想委員会<br>入試広報部<br>入試制度検討委員会   | 主となる事務局 | 第二中学校高等学校事務室 |

評価指標① 入学定員の確保を目指し、着実に入学者数を増加させる。

### 現状と課題

#### 【共立女子第二中学校】

- ・2022年度入試における入学者数は80名、充足率は50%である。
- ・実出願者数における入学者数の割合は約35%である。
- ・サイエンス入試の志願者減少により2023年度入試より取りやめることとした。
- ・適性検査型入試を利用して入学した生徒の学力向上が著しい。

#### 【共立女子第二高等学校】

- ・2022年度入試における入学者数は202名、充足率は84%であり、うち推薦入試での入学者は97名である。
- ・共立女子第二中学校からの内部進学者は増加しており、共立女子第二高等学校の定員確保に近づいている。
- ・第1志望とする生徒が（推薦入試利用）2022年度入試で大きく増加した。

| アクションプラン   | 活動の概要                                      |        |              |        |        |
|--|--|--------|--------------|--------|--------|
|  | 2023年度                                     | 2024年度 | 2025年度       | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 共立女子第二中学校の実出願者数及び入学者数を着実に増加させる。                 | ・実出願者数230人、入学者数120人の確保                     |        |              |        |        |
| 2) 共立女子第二高等学校の入学定員（内部進学者を含めて240人）を確保し、収容定員の充足を目指す。 | ・入学者数240人の確保                               |        |              |        |        |
| 3) アドミッション・ポリシーに基づいて、入試制度を充実させる。                   | ・現行入試制度の検証、改善<br>・入試内容の告知、広報               |        | ・各種入試の実施及び検証 |        |        |
| 4) 卒業生子女及び転編入生を積極的に受け入れる。                          | ・同窓会と連携し、学校ホームページや同窓会誌等を活用した卒業生子女への入試対応の周知 |        |              |        |        |
|  | ・各種広報媒体や公式サイト等を活用し、転編入希望生徒向けの学校情報発信を強化     |        | ・点検、評価、改善    |        |        |



評価指標② 受験者層を拡充するために、「リーダーシップの共立」を核とした戦略的な広報を行う。

現状と課題

- ・「リーダーシップの共立」「セルフリーダーシップの育成」の理念を核とした広報を行っている。
- ・広報の手段がオンライン配信や SNS の活用といったデジタル化が進み、広報媒体が多様化しており、これに対応する教職員の協働体制の充実が必要である。

| アクションプラン                                  | 活動の概要                     |         |                |           |         |
|---|---------------------------|---------|----------------|-----------|---------|
|   | 2023 年度                   | 2024 年度 | 2025 年度        | 2026 年度   | 2027 年度 |
| 1) 外部業者と連携した生徒募集活動を効果的かつ効率的に展開し、認知度向上を図る。 | ・外部業者との連携の下で、多様な媒体にて広報を展開 |         |                | ・広報の検証と改善 |         |
| 2) 教職員が適切に連携し、適正な広報活動体制を確立する。             | ・教職員協働体制の確立に向けた課題整理       |         | ・業務効率化と新たな広報展開 |           |         |

評価指標③ 奨学金制度の活用・検証を行い、学力、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒を確保する。

現状と課題

- ・共立女子第二中学校、共立女子第二高等学校ともに 2023 年度入試に合わせて給付制奨学金制度の基準等を見直した。
- ・奨学金制度を活用し高学力の入学生を確保することが、大学合格実績の向上に寄与している。中学入試においてその傾向は特に顕著である。中でも適性検査型入試による入学生の成績が良好であり当該入試を活用した入学者増加が必要と捉えている。
- ・共立女子第二高等学校新コース制が始動した 2022 年度の高校入試において、特進コースの在籍者を中心に奨学金制度の基準に到達している生徒が比較的多く入学した。
- ・奨学金制度を活用して入学したゴルフ部員が、個人・団体で全国レベルで優秀な成績を収めるなど、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒が在籍している。

| アクションプラン                                | 活動の概要                                     |         |                          |         |         |
|---|---|---------|--------------------------|---------|---------|
|   | 2023 年度                                   | 2024 年度 | 2025 年度                  | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 奨学金制度を活用し、学力、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒を確保する。 | ・奨学生の成績追跡調査等を踏まえた点検、評価、改善により奨学金の効果的な活用の推進 |         | ・3年間の検証結果を踏まえた、奨学金制度の見直し |         |         |
|   | ・部活動顧問等の情報収集と学校訪問の推進                      |         |                          |         |         |

## Ⅲ - 2. 教育改善・教育の質的向上

|            |  |         |              |
|------------|--|---------|--------------|
| 長期目標       | 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、セルフリーダーシップを発揮する人材を養成する。  |         |              |
| 中期計画【評価指標】 | ①共立女子第二中学校は、基礎学力を定着させるために生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上を図る。<br>②共立女子第二高等学校各コースのカリキュラムと生徒の成績等を検証し、検証結果に基づく改善を行い生徒の学習成果を高める。<br>③総合的な探究の時間における「共立探究」の活動を充実させる。<br>④「学習の個別化」と「学習の自律」を促すためのゼミ・補習・講習等を実施する。 |         |              |
| 主となる委員会・会議 | 二中高将来構想委員会<br>教務部<br>国際交流委員会<br>情報システム委員会  | 主となる事務局 | 第二中学校高等学校事務室 |

評価指標① 共立女子第二中学校は、基礎学力を定着させるために生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上を図る。

### 現状と課題

・中学生は、家庭学習が習慣化されていない生徒もあり、授業で学んだ知識や技能が定着していない。

| アクションプラン                          | 活動の概要   |                               |                                  |                  |         |
|-----------------------------------|---|-------------------------------|----------------------------------|------------------|---------|
|                                   | 2023年度  | 2024年度                        | 2025年度                           | 2026年度           | 2027年度  |
| 1)「共立リーダーシップ」の基礎的内容の理解と定着を図る。     | ・「共立リーダーシップ」の基礎的内容の理解を深めるためのプログラムの検討、実施       |                               | ・カリキュラムの中で「共立リーダーシップ」が発揮できる機会の充実 |                  |         |
| 2) 家庭学習を習慣化させ、学んだ知識や技能の定着を図る。     | ・共立手帳（学習の記録）、Google-classroomの活用方法と学習効果の測定、検証 | ・家庭学習を定着させるための学習システム等の情報収集、検討 |                                  | ・新たな学習システムの導入、検証 |         |
| 3) 実用英語技能検定について、卒業までに3級以上の取得を目指す。 | ・取得検定級の目標設定検証と取得実現に向けた方策の検討                   | ・学校全体をあげての校内受検に向けた環境作り        | ・学校全体をあげての校内受検に向けた環境設定に基づく取組     |                  | ・数値目標達成 |

## 評価指標② 共立女子第二高等学校各コースのカリキュラムと生徒の成績等を検証し、検証結果に基づき改善を行い生徒の学習成果を高める。

### 現状と課題

- ・2022年度にコースの再編を行い、現在年次進行中である。
- ・高校特進コースは、合格実績、進路実績の充実が必要である。国公立大学及び難関私立大学の進学率は、2018年5.4%、2019年9.5%、2020年3.8%、2021年8.3%、2022年21.7%である。
- ・総合進学コースは、多様化する進路に対応した教育展開が課題である。
- ・共立進学コースは、共立女子大学・共立女子短期大学の併設校であるメリットを活かした教育プログラムを展開し、学びの幅をさらに広げることが課題である。
- ・英語コースは、世界水準の英語教育を行うため、2022年度より年次進行でベルリッツ講師による授業を行うとともに、グローバルマインドを育むため、高校1年生第3学期に短期留学を実施している。

| アクションプラン  | 活動の概要                                 |                        |                                  |        |         |
|---|---------------------------------------|------------------------|----------------------------------|--------|---------|
|   | 2023年度                                | 2024年度                 | 2025年度                           | 2026年度 | 2027年度  |
| 1) コース再編後の教育実績及び進路実績に基づき、教育内容と教育方法の改善を図る。                                 | ・生徒の成績と進路実績の検証、及び各コースカリキュラム・講座・ゼミ等の改善 |                        | ・コースの特性を踏まえた教育方法の検討、改善           |        |         |
| 2) 「共立リーダーシップ」を発展的に育む機会を構築し、展開する。   | ・「共立リーダーシップ」の発展的なプログラムの検討、実施          |                        | ・カリキュラムの中で「共立リーダーシップ」が発揮できる機会の充実 |        |         |
| 3) 実用英語技能検定について、卒業までに英語コースは準1級以上、特進コースは2級以上、総合進学コース及び共立進学コースは準2級以上取得を目指す。 | ・取得検定級の目標設定検証と取得実現に向けた方策の検討           | ・学校全体をあげての校内受検に向けた環境作り | ・学校全体をあげての校内受検に向けた環境設定に基づく取組     |        | ・数値目標達成 |

## 評価指標③ 総合的な探究の時間における「共立探究」の活動を充実させる。

### 現状と課題

- ・中学においては、八王子探究を軸にグループ発表や展示発表などを行っている。
- ・高校1年生はビブリオバトル（書評合戦）や新聞スクラップ発表などを行っている。
- ・高校2年生は自分で探究するテーマを設定し、発表を行っている。
- ・高校3年生は進路探究を行っている。

| アクションプラン   | 活動の概要                              |                            |                  |        |        |
|--|------------------------------------|----------------------------|------------------|--------|--------|
|  | 2023年度                             | 2024年度                     | 2025年度           | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 「共立探究」のプログラムを通して、思考力・判断力・表現力を向上させる。                   | ・2022年度までの「共立探究」の活動の点検、評価、改善       | ・企業、地域、外部業者等と連携した「共立探究」の検討 | ・新規の「共立探究」の導入、検証 |        |        |
| 2) 探究、教科、行事を通じた効果的なカリキュラムの運用を図る。                         | ・現行カリキュラムの点検、評価、計画                 |                            | ・点検、評価、改善        |        |        |
| 3) 英語コースにおいては、グローバルマインドの育成を目的とした「総合的な探究の時間」の3年間の流れを構築する。 | ・高校2年生において地元企業と連携した授業展開<br>・PBLの実施 | ・高校3年生において世界の課題と向き合うPBLの実施 | ・点検、評価、改善        |        |        |

評価指標④ 「学習の個別化」と「学習の自律」を促すためのゼミ・補習・講習等を実施する。

現状と課題

- ・補習は共立女子第二中学校で実施しており、定期考査毎に対象者を指定している。
- ・ゼミは主に夏期休暇中に全学年で実施しており、中学は国数英、高校は国数英理社で講座を設けている。
- ・共立女子第二中学校、共立女子第二高等学校合わせて年間 10 人程度の退学者（転学者含む）が出ている。（2017 年度 14 名、2018 年度 10 名、2019 年度 6 名、2020 年度 8 名、2021 年度 8 名）
- ・各教室に設置された超単焦点プロジェクターや生徒が用意するデバイス（BYOD）を活用した授業とホームルームを行っている。
- ・教職員に対し、ICT 機器の活用状況を把握するため、使用状況や ICT 機器の理解度についてのアンケートを定期的に行っている。

| アクションプラン  | 活動の概要                  |                        |                            |         |                     |
|---|------------------------|------------------------|----------------------------|---------|---------------------|
|   | 2023 年度                | 2024 年度                | 2025 年度                    | 2026 年度 | 2027 年度             |
| 1) ゼミ・補習・講習を充実させ、学習の自律と個別化を促す。                          | ・希望制ゼミの充実、応用、発展的な講習の検討 | ・希望制ゼミの充実、応用、発展的な講習の実践 |                            |         | ・生徒の学習状況把握と運営上の課題改善 |
| 2) 支援を必要とする生徒が対面とオンラインを併用しながら、学習を継続できるようにする。（退学者の減少）    | ・学習支援組織の設置構想の検討、調整     | ・意思決定に向けた調整（規程等整備含む）   | ・学習支援組織の設置<br>・オンライン教材等の充実 |         | ・組織運営上の課題改善         |
|   |                        |                        |                            |         | ・生徒の学習状況の把握         |
| 3) ICT 機器の授業における活用方法を積極的に導入し、教育の質的向上と生徒の ICT スキルの向上を図る。 | ・現行の ICT 機器の活用状況の検証    | ・より効果的な活用方法の検討と校内研修の実施 |                            |         | ・点検、評価、改善           |

### Ⅲ - 3. 生徒支援・進路支援

|                |  |         |              |
|----------------|--|---------|--------------|
| 長期目標           | 教科指導と課外活動において、一人ひとりの生徒の心と体の健全な成長を見守り、生徒が自律的に現在及び将来における自己実現を図っていけるよう支援を行う。また、一人ひとりの生徒がそれぞれ自己と向き合い、学びと社会を知り、主体的に針路について考え希望針路の実現を図っていけるよう支援を行う。                                       |         |              |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①心身の健全な成長に向けて、適切な支援を行う。<br>②生徒会・委員会・クラブ等の活動において、生徒の自主性を引き出し、一人ひとりの能力を発揮できる機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。<br>③針路プログラムを通してキャリア形成を行い、生徒一人ひとりの針路を実現する。<br>④共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携を強化する。 |         |              |
| 主となる<br>委員会・会議 | 生徒部<br>進路指導部<br>教務部  | 主となる事務局 | 第二中学校高等学校事務室 |

#### 評価指標① 心身の健全な成長に向けて、適切な支援を行う。

##### 現状と課題

- ・不登校、不登校傾向の生徒、発達に特性のある生徒が増加しており、教職員がチームとして対応していく体制を充実する必要がある。
- ・スクールカウンセラーへの相談件数が増加している。
- ・伝統的な礼法に基づいた礼儀やマナーを身につけさせ、他者への感謝と思いやりの心を育てている。
- ・校内、校外において第三者に対する思いやりを発揮できるよう、さらに思いやりの心を醸成する必要がある。
- ・情報化社会で生活するためのネットリテラシー（情報モラル）の向上が求められる。

| アクションプラン                                 | 活動の概要                    |  |             |        |        |
|--|--------------------------|--|-------------|--------|--------|
|  | 2023年度                   | 2024年度   | 2025年度      | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 特別な配慮が必要な生徒に対する支援を充実する。               | ・現状の検証と改善策の策定            |  | ・支援体制の改善、充実 |        |        |
|  | ・教職員間における生徒情報の共有方法の迅速化   | ・教職員のスキル向上のための研修を実施                            |             |        |        |
| 2) 生徒との対話を通してマナーやルールに対する意識を向上させ、自律心を育てる。 | ・指導のあり方の検証及び生徒との対話を通じた改善 | ・面談やアンケート等を通じた意識調査の実施                          | ・点検、評価、改善   |        |        |
| 3) 生徒のネットリテラシー（情報モラル）を向上させる。             | ・外部講師や生徒会と連携した取組の計画      | ・外部講師による講演会の実施<br>・生徒会による啓蒙活動の実施<br>・保護者への情報発信 | ・点検、改善      |        |        |

評価指標② 生徒会・委員会・クラブ等の活動において、生徒の自主性を引き出し、一人ひとりの能力を発揮できる機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。

### 現状と課題

- ・生徒会、委員会活動の中で自己肯定感を高めるための活動の充実が必要である。
- ・クラブ、同好会への加入率が低下しており、魅力があるクラブ、同好会のあり方を見直す必要がある。  
(加入率：2017年度 88.2%、2018年度 86.3%、2019年度 82.3%、2020年度 83.4%、2021年度 78.1%、2022年度 78.6%)

| アクションプラン  | 活動の概要                        |                       |                                  |        |        |
|---|------------------------------|-----------------------|----------------------------------|--------|--------|
|   | 2023年度                       | 2024年度                | 2025年度                           | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 生徒会と委員会活動において、生徒の主体的な活動により活性化させる。                      | ・生徒会、委員会活動に対する生徒の意見を収集、取りまとめ |                       | ・生徒による意見を踏まえた支援充実<br>・生徒主体の活動を拡大 |        |        |
| 2) クラブと同好会活動の活性化と加入率を向上させる。<br>(全校生徒のクラブ、同好会加入率を80%以上にする) | ・部活動指導員(外部指導者)について検討         | ・部活動指導員(外部指導者)への研修、導入 |                                  |        |        |
|   | ・クラブ、同好会数の適正化の検討             |                       |                                  |        |        |

### 評価指標③ 針路プログラムを通してキャリア形成を行い、生徒一人ひとりの針路を実現する。

#### 現状と課題

- ・6か年又は3か年の針路プログラムを展開しているが、キャリア形成に対する支援が充分でないと捉えている。
- ・実社会との連携の中でキャリア形成を促す支援が必要である。
- ・「総合的な探究の時間」に実施している「進路探究」と進路指導を関連させ、より個別に対応した進路指導を促進させる必要がある。
- ・生徒の大学合格までのプロセスを多角的に検証し、進路指導に活かしていく必要がある。

| アクションプラン  | 活動の概要   |                                    |  |                       |        |
|---|---|------------------------------------|--|-----------------------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度                             | 2025年度   | 2026年度                | 2027年度 |
| 1) 針路プログラムを通して、生徒自身が長期的な視点でキャリアを考えられるようになる。                               | ・2022年度までの針路プログラムの課題整理と検証   | ・生徒一人ひとりのキャリア形成支援の在り方を再定義しプログラムを設計 | ・針路プログラムの改善、充実<br>・様々なキャリアを知るための講演会の実施<br>・卒業生との座談会の実施 |                       |        |
| 2) データ分析を踏まえた進路指導を行う。   | ・各種データの整理と生徒の進路を検証  |                                    |  | ・進路指導内容、進路指導方法への反映、改善 |        |
| 3) 特別進学コースは、国公立・難関私大への現役進学率を20%以上、GMARCH及び理工系・医療系への現役進学率を30%以上とする。        | ・校内ゼミ、講座、既存プログラムと成績、模試結果の検証と改善                                    |                                    |  |                       |        |
| 4) 総合進学コースは、生徒自身の興味や関心に応じた進路を実現する。  | ・生徒の興味や関心を広げられる教育内容や課外活動の実施<br>・様々な分野における体験や入試制度の情報提供及び推進         |                                    |  |                       |        |
| 5) 共立進学コースは、KWU 高大連携プログラムを柱とした高大連携強化と学びを充実させ、共立女子大学・共立女子短期大学への円滑な進学を実現する。 | ・共立女子大学・共立女子短期大学との多様な連携策の企画立案、調整、実施                               |                                    |  |                       |        |
| 6) 英語コースは、進学指導において海外大学への関心を高め、海外大学進学者を増加させる。                              | ・英語4技能に特化した教育、講座等の展開<br>・ターム留学の推進と支援<br>・海外大学進学に関する情報収集、提供、推薦枠の確保 |                                    |  |                       |        |

### 評価指標④ 共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携を強化する。

#### 現状と課題

- ・共立女子大学・共立女子短期大学とは、高校2年生で大学・短期大学説明会、高校3年生で個別相談会を実施している。
- ・生徒が具体的な目標を想像できるよう、生徒のニーズに合わせた出張講義等、外部大学や地域との連携を強める必要がある。

| アクションプラン                                  | 活動の概要   |        |        |                 |        |
|---|---|--------|--------|-----------------|--------|
|   | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度          | 2027年度 |
| 1) 共立女子大学・共立女子短期大学の教育研究に触れる機会を増やし、理解を深める。 | ・キャンパス見学会の実施、内容の改善を検討<br>・研究室訪問や模擬授業について検討<br>・KWU 高大連携プログラムの充実 |        |        |                 |        |
| 2) 他大学や地域企業と連携し、多様な情報に触れる機会を増加させる。        | ・近隣大学、地域企業との連携の下、出張授業等の可能性について検討、実施                             |        |        | ・発展的な包括連携協定等の検討 |        |



## Ⅲ - 4. 管理運営

|                |   |         |              |
|----------------|---|---------|--------------|
| 長期目標           | 「共立女子第二中学校高等学校ビジョン 2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。   |         |              |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①生徒・保護者の共立女子第二中学校高等学校に対する満足度を向上させる。<br>②スクールポリシーに基づいた特色ある教育を展開するため、教職員の適切な配置と資質向上を図る。<br>③八王子キャンパスの施設を整備し、有効活用する。 |         |              |
| 主となる<br>委員会・会議 | 二中高将来構想委員会  | 主となる事務局 | 第二中学校高等学校事務室 |

### 評価指標① 生徒・保護者の共立女子第二中学校高等学校に対する満足度を向上させる。

#### 現状と課題

- 2021年度学校評価に関わる生徒アンケートの回答率は59.1%、保護者アンケートの回答率は69.1%である。
- 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の「そう思う」以上の評価は上昇している。  
(2017年度79.0%、2018年度70.1%、2019年度68.6%、2020年度86.0%、2021年度87.4%)
- 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の「そう思う」以上の評価はやや下降している。  
(2017年度87.3%、2018年度87.2%、2019年度84.9%、2020年度84.8%、2021年度84.5%)
- 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の「そう思う」以上の評価は維持している。  
(2017年度91.6%、2018年度92.8%、2019年度92.7%、2020年度93.5%、2021年度91.1%)
- コロナ禍による行事中止により、保護者との接点が減少しており、学校活動を広く周知する必要がある。

| アクションプラン   | 活動の概要                              |                                       |                       |        |        |
|--|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------|--------|--------|
|  | 2023年度                             | 2024年度                                | 2025年度                | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 学校評価アンケートの回答率を向上させ、結果の信頼性を高める。                                    | ・実施時期と方法を改善し、生徒と保護者ともに回答率70%以上を目指す | ・実施時期と方法を検証、改善し、生徒と保護者ともに回答率80%以上を目指す | ・結果検証、次年度への改善計画の立案、実施 |        |        |
| 2) 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。   | ・アンケート実施、結果検証、次年度への改善計画の立案、実施      |                                       |                       |        |        |
| 3) 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。  |                                    |                                       |                       |        |        |
| 4) 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させて良かった」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。 |                                    |                                       |                       |        |        |



## 評価指標② スクールポリシーに基づいた特色ある教育を展開するため、教職員の適切な配置と資質向上を図る。

### 現状と課題

- ・全教職員（非常勤等含む）による拡大職員会議を年2回実施し、学校運営方針を中心に情報共有・交換を実施している。
- ・研修職員会議を年2～3回実施している。学習・生活指導、校務運営等に反映させている。
- ・教育の質的向上を図るための教員配置計画に基づき、効率性、効果性を考慮した人員配置を行っている。
- ・生徒数増加に伴い、クラス数も増加傾向である。

| アクションプラン   | 活動の概要                           |        |  |        |        |
|--|---------------------------------|--------|--|--------|--------|
|  | 2023年度                          | 2024年度 | 2025年度   | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 校内外の研修会に積極的に取り組む、生徒への学習効果を高めるための教育内容・教育方法を研鑽する。 | ・研修職員会議を年3回実施（うち1回は外部講師を招いての実施） |        | ・研修会の継続実施<br>・職務に応じた研修方針、研修計画の策定<br>・方針、計画に基づいた研修の実施 |        |        |
|  | ・校外研修会の情報収集と周知、参加               |        |  |        |        |
| 2) 生徒が「共立リーダーシップ」を身に付け、発揮するため、教職員の支援スキルを向上する。      | ・教職員対象の「リーダーシップ研修」の検討、実施        |        |  |        |        |
| 3) 教育活動に取り組む時間を増加するため、業務効率化を推進する。                  | ・校務・業務分担の洗い出し                   |        | ・アウトソーシングを含めた業務効率化の検討、実施                             |        |        |

## 評価指標③ 八王子キャンパスの施設を整備し、有効活用する。

### 現状と課題

- ・地域貢献をより促進させるため、施設貸出に関する条件を設定するとともに、申込窓口を設けている。

| アクションプラン                                  | 活動の概要                      |        |                                   |        |        |
|---|----------------------------|--------|-----------------------------------|--------|--------|
|   | 2023年度                     | 2024年度 | 2025年度                            | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 模試や部活等の公式戦、地域イベント等に協力し、企業や地域の活性化に貢献する。 | ・模試合場2回、部活等の公式戦会場として10回の提供 |        | ・提供状況の妥当性の検証<br>・地域貢献に有効な活動の検討、実施 |        |        |
|   | ・施設貸出に関する条件の精査、見直し         |        |                                   |        |        |



## IV. 共立大日坂幼稚園

## IV - 1. 園児募集・園児確保

|                |  |         |   |
|----------------|--|---------|---|
| 長期目標           | 教育課程・指導計画の改善・充実、入園者選考方法の改善等を通じて、十分な定員を確保する。        |         |   |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①入園定員を確保する。<br>②教育方針に共感する志願者を得るために適切かつ効果的な広報を展開する。 |         |   |
| 主となる<br>委員会・会議 | 入園考査関連委員会  | 主となる事務局 | — |

### 評価指標① 入園定員を確保する。

#### 現状と課題

- ・受験を考える保護者層の情報収集ツールはスマートフォンが主流になってきている。
- ・現在、入園考査方法は「保護者、志願者との面接」と「子どもの行動観察」を行っている。
- ・定員に満たない年次は、積極的に転編入を受け入れており、毎年数人が転編入園している。
- ・入試要項（紙媒体）の手渡し、問い合わせ対応、健康診断の受付対応、入園考査における資料作成等の作業工数が多い。

| アクションプラン                         | 活動の概要                   |        |                   |           |        |
|----------------------------------|-------------------------|--------|-------------------|-----------|--------|
|                                  | 2023年度                  | 2024年度 | 2025年度            | 2026年度    | 2027年度 |
| 1) 地域の特性を踏まえた園児募集と入試を実施する。       | ・近隣幼稚園の入園考査に関する事項を調査、分析 |        | ・園児募集活動及び考査内容の見直し | ・点検、評価、改善 |        |
| 2) デジタル化を図り、入試業務における教職員の工数を削減する。 | ・入園考査業務の点検、評価と簡素化を検討    |        | ・課題改善策を企画立案       | ・点検、評価、改善 |        |

評価指標② 教育方針に共感する志願者を得るために適切かつ効果的な広報を展開する。

現状と課題

- ・幼稚園案内パンフレットを3年ごとに検討、リニューアルし、内容を充実させている。
- ・ホームページ上で園児の活動をわかりやすく、タイムリーに伝えると共に、説明会、未就園児活動等の予約ページを展開している。
- ・少子化、新型コロナウイルス感染症の影響により遠方からの登園者が減少したことや長時間保育に対するニーズに対応しきれていないことにより志願者増加は困難が予想される。
- ・園庭開放、絵本の読み聞かせ、体験入園などを通して、保護者だけでなく子どものファンを増やすことを視野に入れた活動を実施している。

| アクションプラン                                | 活動の概要                         |                |                              |              |                |
|---|-------------------------------|----------------|------------------------------|--------------|----------------|
|   | 2023年度                        | 2024年度         | 2025年度                       | 2026年度       | 2027年度         |
| 1) 保護者への調査をもとに広報充実を図る。                  | ・幼稚園選びのポイントを調査<br>・本園の認知経路を調査 |                | ・広報媒体とその内容について改善、実践          |              |                |
| 2) 共立大日坂幼稚園の教育内容が伝わりやすいパンフレットを作成、配布する。  | ・パンフレットの内容を検討                 | ・パンフレットをリニューアル | ・内容を点検、改善、検討                 |              | ・パンフレットをリニューアル |
| 3) 入園後のイメージが伝わる情報を発信するホームページを作成し、運営をする。 | ・ホームページコンテンツの見直し              |                | ・内容を点検、改善、実施                 |              |                |
| 4) デジタル化に合わせた広報を展開する。                   | ・募集情報ツールを検討<br>・イメージ動画作成を検討   |                | ・募集情報ツールを運用<br>・イメージ動画を作成、公開 |              | ・内容を評価         |
| 5) 共立大日坂幼稚園の魅力が伝わるよう未就園児活動を活性化させる。      | ・活動の改善、充実                     |                | ・活動内容を点検、改善                  |              |                |
| 6) 卒園児保護者と連携した活動を活性化させる。                | ・新規活動を検討                      | ・新規活動を実施       |                              | ・活動を点検、評価、改善 |                |
|   | ・卒園児保護者と連携した広報活動の実施、充実        |                |                              |              |                |

## IV - 2. 教育改善・教育の質的向上

|                |  |         |   |
|----------------|--|---------|---|
| 長期目標           | 園生活の中で、一人ひとりに応じた「リーダーシップの芽」を育むために組織的に協働し支援を行う。   |         |   |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①幼稚園教育要領に定義されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、主体的・対話的な学びの中で、一人ひとりの個性に寄り添いながら、「リーダーシップの芽」を育むための支援を行う。<br>②「リーダーシップの芽」を育成するため、園内研修システムを構築し、実施する。 |         |   |
| 主となる<br>委員会・会議 | 幼稚園教員会   | 主となる事務局 | — |

評価指標① 幼稚園教育要領に定義されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、主体的・対話的な学びの中で、一人ひとりの個性に寄り添いながら、「リーダーシップの芽」を育むための支援を行う。

### 現状と課題

- ・学年ごとの教育目標及びカリキュラムを設定している。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」に応じた教育課程の検討を行い、カリキュラムを設定し活動計画を立てている。
- ・学年教員間で情報共有するための時間を日々設け、園児の個性について共有しており、学年をまたいだ情報共有を必要に応じて行っている。
- ・保護者との面談記録などを教員間でよりスムーズな共有を進める必要がある。
- ・中長期的な教育の方針を長期休暇中を利用して園全体で見直している。
- ・併設校間での教育活動は、豊かな活動、人との交流になってきたが、コロナ禍で実施できないことが続いた。

| アクションプラン                                  | 活動の概要              |               |                 |                  |          |
|---|--------------------|---------------|-----------------|------------------|----------|
|   | 2023 年度            | 2024 年度       | 2025 年度         | 2026 年度          | 2027 年度  |
| 1) 園児の発達段階や年齢に応じた、教育を展開する。                | ・教育内容を点検、評価        | ・教育内容を改善      | ・教育内容を点検、評価、改善  |                  |          |
| 2) 友達、先生と協働的に取り組める環境、のびのびと園児が活動できる環境を整える。 | ・施設設備及び園庭の点検       |               | ・改善計画に基づいた整備を実行 |                  |          |
| 3) 園児の個性を教員間で共有し、一人ひとりに合った教育を展開する。        | ・園児情報を共有するシステムの構築  |               | ・システムを活用した教育の展開 |                  | ・システムを点検 |
| 4) 併設校と連携した教育を展開する。                       | ・併設校との連携教育プログラムを検討 | ・連携教育プログラムを展開 |                 | ・連携教育プログラムを点検、評価 |          |

評価指標② 「リーダーシップの芽」を育成するため、園内研修システムを構築し、実施する。

現状と課題

- ・コロナ禍においても個々の学びに重きを置いた外部研修に参加している。
- ・研修で得た知識の共有方法として教員報告シートを作成し、報告会を年間に1～2回実施している。
- ・共立女子大学家政学部児童学科と連携した公開保育を計画的に行っている。

| アクションプラン   | 活動の概要                   |        |  |             |        |
|--|-------------------------|--------|--|-------------|--------|
|  | 2023年度                  | 2024年度 | 2025年度                                     | 2026年度      | 2027年度 |
| 1)「共立リーダーシップ」を全教員が深く理解し、教育の質的向上につながる研修を計画し、実施する。 | ・複数年を想定した体系的な研修計画を検討、策定 |        | ・研修を実施<br>・研修にて身に付けた知識・技能を活用した教育内容、教育方法の改善 |             |        |
| 2)受講した研修内容を教員間で効果的に共有する方法を構築する。                  | ・研修内容共有方法の検討、評価、改善      |        |  | ・共有方法を評価、改善 |        |

大短

中高

二中高

幼稚園

学園

## IV - 3. 保護者との連携・協力

|            |   |         |   |
|------------|---|---------|---|
| 長期目標       | 園児が安心・安全に幼稚園生活を過ごすことができるよう、家庭と緊密な連携・協力を図り、子ども達の育ちを支える。          |         |   |
| 中期計画【評価指標】 | ①保護者とのコミュニケーションの中で把握した課題の改善を行い、その活動を発信することで、幼稚園と家庭が一体となる取組を進める。 |         |   |
| 主となる委員会・会議 | 園内研修検討委員会   | 主となる事務局 | — |

評価指標① 保護者とのコミュニケーションの中で把握した課題の改善を行い、その活動を発信することで、幼稚園と家庭が一体となる取組を進める。

### 現状と課題

- 保護者と園長の懇談会は「母の会」協力のもと、3学年縦割りの形で意見交換を行い、共立大日坂幼稚園への理解が深まっている。
- 全園児保護者が所属する「母の会」とは風通しの良い関係が築けるよう、必要な情報を共有している。
- 保護者への情報提供が紙媒体であったり、保護者からの欠席報告が電話利用であったり、利便性に欠ける部分がある。
- 就労女性の増加や生活スタイルの変化やデジタルツールに合わせたアプリの導入を進めている。
- 学期ごとに1～2回個人面談を計画実施している。
- 計画とは別途に、保護者からの要望に合わせて個人面談を実施している。
- コロナ禍においては対面と電話での面談ができるよう対応している。
- 懇談会、面談において問題提起があったものは、園長や教員間で共有している。
- 学校評価の保護者アンケート提出率は88%（2018～2021年度平均）であった。
- 「自分の子どもは、幼稚園に喜んで通っている」という子どもの満足度に関する項目については「そう思う」以上は99%（2018～2021年度平均）であった。
- 「保護者は、園や教師に子どものことを相談しやすい」という保護者とのコミュニケーションに関する項目については「そう思う」以上は95%（2018～2021年度平均）であった。

| アクションプラン                                  | 活動の概要               |                |                 |               |        |
|---|---------------------|----------------|-----------------|---------------|--------|
|   | 2023年度              | 2024年度         | 2025年度          | 2026年度        | 2027年度 |
| 1) 保護者との連絡をデジタル化し、利便性を高める。                | ・保護者用アプリを活用、意見聴取    | ・アプリの内容を検討     |                 | ・アプリの内容を評価、改善 |        |
| 2) 保護者とのコミュニケーションで課題を把握し改善を図る。            | ・保護者からの意見聴取         | ・保護者の意見への対応・改善 |                 |               |        |
| 3) 学校評価アンケートをデジタル化し利便性を高める。               | ・利便性の高いツールを導入、評価    |                | ・アンケート内容を検討、精査  |               |        |
| 4) 「母の会」との連携を継続し、共立大日坂幼稚園の教育への理解と協力につなげる。 | ・年間計画に基づいた連携を検討、見直し |                | ・年間計画に基づいた連携を実施 |               |        |



## IV - 4. 管理運営

|                |   |         |   |
|----------------|---|---------|---|
| 長期目標           | 「共立大日坂幼稚園ビジョン 2032」の達成に向けて、教職員がリーダーシップを発揮し、地域社会等と連携しながら、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。   |         |   |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①法人の経営課題や幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、「共立大日坂幼稚園ビジョン 2032」達成に向けて教職員一体となって取り組む。<br>②文京区・地域・社会等からの共立大日坂幼稚園の教育活動に対する要請を把握し、適切な幼稚園運営に務める。 |         |   |
| 主となる<br>委員会・会議 | 幼稚園教員会  | 主となる事務局 | — |

評価指標① 法人の経営課題や幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、「共立大日坂幼稚園ビジョン 2032」達成に向けて教職員一体となって取り組む。

### 現状と課題

- ・毎朝、打ち合わせ会を設けている。
- ・学年に関わる事項は教員間で保育後の時間に、そして園全体に関わる事項は、共有する場を計画的、かつ必要に応じて設けている。
- ・業務のデジタル化が不十分である。
- ・学園全体の共通システムへの適用ができていない部分がある。
- ・教育に直接的に関わらない多様な業務が増加しており、デジタル化を進める必要がある。

| アクションプラン                             | 活動の概要                             |         |                      |         |         |
|--------------------------------------|-----------------------------------|---------|----------------------|---------|---------|
|                                      | 2023 年度                           | 2024 年度 | 2025 年度              | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) デジタル化による業務軽減に基づき、教育活動に取り組む時間を増やす。 | ・ 日常業務を洗い出し<br>・ 業務のデジタル化         |         | ・ デジタル化を評価、改善        |         |         |
| 2) 教員間の情報交換のスピード化を図り、定期的な打ち合わせを実施する。 | ・ 園内情報交換のデジタル化を構築                 |         | ・ 園内情報交換のデジタル化を評価、改善 |         |         |
| 3) 法人事務局との連携強化を図り、管理運営を検討する体制を整える。   | ・ 法人事務局との連携を強化<br>・ 課題改善に向けた検討、実施 |         |                      |         |         |

評価指標② 文京区・地域・社会等からの共立大日坂幼稚園の教育活動に対する要請を把握し、適切な幼稚園運営に務める。

### 現状と課題

- ・不定期に近隣幼稚園と合同研修会を実施している。
- ・園長会を通し、定期的に文京区幼児保育課と話し合いの場を設けている。
- ・幼稚園教育への円滑な接続のための未就園児教育として、園庭開放や体験入園を実施している。

| アクションプラン                                   | 活動の概要              |                       |         |            |         |
|--|--------------------|-----------------------|---------|------------|---------|
|  | 2023 年度            | 2024 年度               | 2025 年度 | 2026 年度    | 2027 年度 |
| 1) 社会的なニーズに対して迅速に対応するため、行政や近隣幼稚園との連携を密にする。 | ・ 社会的なニーズの調査、情報の収集 | ・ 社会的なニーズに基づいた活動計画を検討 |         | ・ 活動を実施、評価 |         |
| 2) 地域の要請に合わせた活動を実施する。                      | ・ 地域の要請を集約、精査      | ・ 地域の要請に基づいた活動を検討、計画  |         | ・ 活動を実施、評価 |         |



# V . 共立女子学園

## V - 1. 財政

|                |  |         |     |
|----------------|--|---------|-----|
| 長期目標           | 共立女子学園の永続維持のため安定した財政基盤を確立する。   |         |     |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①予算の配分と執行管理を適切に行い、決算において基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。<br>②中長期的な資金需要に基づいて特定資産の積立を計画的に行う。<br>③安定した財政基盤の確立のため適切に収入を確保する。 |         |     |
| 主となる<br>委員会・会議 | 財政運営会議   | 主となる事務局 | 財務課 |

評価指標① 予算の配分と執行管理を適切に行い、決算において基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

### 現状と課題

- ・第二期中期計画では予算の適切な執行管理を行い基本金組入前当年度収支差額を収入超過とすることができた。
- ・今後は教育活動を充実させるために予算を効率的に執行し競争力を高めるとともに、定員未充足の設置校に対する財政的支援が課題となる。
- ・教育研究費比率 33.3%（2021 年度実績値）を全国平均に近づける。（参考：全国平均 35.1%『今日の私学財政：2021 年度版』（医歯系法人を除く）より）

| アクションプラン                          | 活動の概要  |         |         |         |         |
|-----------------------------------|--|---------|---------|---------|---------|
|                                   | 2023 年度  | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 予算編成において経常収支差額を収支均衡予算とする。      | ・適切な予算配分を行い毎年度収支均衡予算を策定                          |         |         |         |         |
|                                   | ・教育活動充実のための中期計画予算を毎年度 2 億円確保                     |         |         |         |         |
|                                   | ・第二中学校高等学校及び短期大学の教育の質の維持向上を図るための財政支援             |         |         |         |         |
| 2) 決算において基本金組入前当年度収支差額の収入超過を維持する。 | ・中期計画期間中において、適切な予算の執行管理を行い基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。 |         |         |         |         |

評価指標② 中長期的な資金需要に基づいて特定資産の積立を計画的に行う。

### 現状と課題

- ・特定資産は 2016 年度において約 112 億円であったが、2021 年度決算で約 183 億円となり、神田一ツ橋キャンパスグランドデザインの実施に必要な特定資産は堅実に増加している。
- ・神田一ツ橋キャンパスグランドデザインに伴う資金需要に備えて中長期的な資金計画を策定し、毎年度計画的に資金を積み立てていく必要がある。

| アクションプラン                        | 活動の概要           |         |         |         |         |
|---------------------------------|-----------------|---------|---------|---------|---------|
|                                 | 2023 年度         | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 |
| 1) 将来の建替更新に備えて毎年計画的に特定資産に積み立てる。 | ・5 年間で 50 億円の積立 |         |         |         |         |

評価指標③ 安定した財政基盤の確立のため適切に収入を確保する。

現状と課題

- ・財政基盤の維持と教育活動充実のために学生生徒等納付金収入を安定的に確保する必要がある。
- ・寄付金比率が 2021 年度実績において 1.4%であり、全国平均 2.3% と比べて低い。
- ・運用可能な特定資産について、より効率的な資産運用を行う必要がある。

| アクションプラン                           | 活動の概要                    |         |         |           |         |
|------------------------------------|--------------------------|---------|---------|-----------|---------|
|                                    | 2023 年度                  | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度   | 2027 年度 |
| 1) 適切な学費を検証する。                     | ・各設置校・学部・科の収支構造の検証       |         |         |           |         |
| 2) 共立女子大学・共立女子短期大学における補助金収入の増額を図る。 | ・達成が可能な配分基準の検証           |         |         |           |         |
| 3) 募金事務室の体制整備及び寄付金額の増収を図る。         | ・フューチャーズ募金目標総額 2 億 5 千万円 |         |         | ・新募金制度の実施 |         |
| 4) 効率的な資産運用を行い、利息収入を確保する。          | ・毎年 1 億円以上の利息収入確保        |         |         |           |         |

大短

中高

二中高

幼稚園

学園

## V - 2. 組織・人材

|                |   |         |     |
|----------------|---|---------|-----|
| 長期目標           | 教職員一人ひとりが「共立リーダーシップ」を発揮し、やり甲斐を持って能力を生かし、活躍できる職場環境を整備する。   |         |     |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①中長期的な総人件費管理を行い、「共立リーダーシップ」を発揮できる人材を確保し、適切な人員配置を行う。<br>②公平で透明性のある人事評価制度を確立する。<br>③新たな人事・給与制度を導入する。<br>④全ての事務職員がそれぞれの「共立リーダーシップ」を発揮するために、必要な能力・資質を向上させるためのSDを実施し、自律的なキャリア構築や学び直しを促進する施策を実施する。<br>⑤働きやすい事務局の職場づくりのため、組織調査等で課題を可視化し、解決方策を推進する。 |         |     |
| 主となる<br>委員会・会議 | 学園将来基本構想委員会   | 主となる事務局 | 人事課 |

評価指標① 中長期的な総人件費管理を行い、「共立リーダーシップ」を発揮できる人材を確保し、適切な人員配置を行う。

### 現状と課題

#### 【現状】

・ 第二期中期計画期間中の人件費関連指標

人件費比率 2018年度 57.0%、2019年度 57.3%、2020年度 56.2%、2021年度 55.9%、2022年度 57.5%

人件費依存率 2018年度 75.9%、2019年度 75.3%、2020年度 74.3%、2021年度 73.4%、2022年度 73.4%

※ 2022年度は補正予算数値

・ 人員配置

大学・短大教員：初年次教育や、リメディアル教育、国際交流など全学的な課題に対応する担い手が不足している。

助手：多様な学生を受け入れるうえで支援の幅が広がっており職務内容の在り方を修正する必要がある。

中高・二中高・幼稚園教員：教育（保育）ニーズの多様化に伴い、課題に対応する担い手が不足している。

事務職員：新たな教育ニーズへの支援や大学マネジメントの課題について牽引する人材が不足している。

#### 【課題】

・ 人件費率、人件費依存率ともに改善傾向にあるが、学園の財政状況を踏まえた人件費管理と人員配置が課題である。

| アクションプラン                                  | 活動の概要                                   |                            |        |        |        |
|---|---|----------------------------|--------|--------|--------|
|   | 2023年度                                  | 2024年度                     | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) [適切な人件費管理] 総額人件費の適正化に向けて教職員の定数管理を行う。   | ・ 収入における適切な人件費の割合を検討                    | ・ 教職員を管理しながら、適切な人員配置を検討、履行 |        |        |        |
| 2) [採用] 将来を担う若手人材の獲得、豊富な経験やスキルを持つ人材を確保する。 | ・ 人材補充（新卒採用・中途採用）を適切に実施<br>・ 専門人材の採用を実施 |                            |        |        |        |
| 3) [再雇用] 豊富な経験やスキルを持つ人材を積極的に活かす。          | ・ 大学・短期大学の教員の定年再雇用制度の策定                 | ・ 事務職員、中高幼教員の定年再雇用制度の策定    |        |        |        |

## 評価指標② 公平で透明性のある人事評価制度を確立する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・第二期中期計画期間中において、事務職員の人事評価制度の本格導入を行った。

#### 【課題】

- ・事務職員の人事評価制度は今後評価制度のさらなる改善が必要である。
- ・全学的に評価制度の導入検討が必要である。

| アクションプラン                            | 活動の概要                    |                                       |                       |        |        |
|-------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|-----------------------|--------|--------|
|                                     | 2023年度                   | 2024年度                                | 2025年度                | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) [人事評価] 公平で透明性のある人事評価制度を全学的に整備する。 | ・職員の評価者研修の充実及び被評価者研修の実施  | ・職員の評価項目の点検見直し<br>・職務限定職、嘱託職員への人事評価検討 | ・職務限定職、嘱託職員への人事評価試行実施 |        |        |
|                                     | ・大学教員の人事評価制度の検討、制度（案）を設計 |                                       |                       |        |        |

## 評価指標③ 新たな人事・給与制度を導入する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022年度に実施した組織診断では前回調査時(2018年度)と比較して「職場」「人事制度」等の項目が全体的に改善された。

#### 【課題】

- ・報酬：年功的で活躍や成長に応じたメリハリのある報酬になっていない。
- ・等級制度：業務創造や新業務の展開を牽引する専門人材の受け皿が未整備、等級役割が曖昧で若手のキャリア開発や各人の役割、職制を示せていない。

| アクションプラン                                  | 活動の概要                      |                     |                       |        |        |
|---|----------------------------|---------------------|-----------------------|--------|--------|
|   | 2023年度                     | 2024年度              | 2025年度                | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) [報酬] 事務職員について職位・等級に応じた新たな人事・給与制度を推進する。 | ・人事評価結果を賞与に反映              | ・人事評価結果に基づいて昇進昇格を実施 | ・人事評価結果を給与、賞与に反映      |        |        |
|   | ・等級制度の見直しと新たな給与制度（案）を策定、公表 |                     | ・新給与制度（案）について職員の理解を促進 |        |        |

評価指標④ 全ての事務職員がそれぞれの「共立リーダーシップ」を発揮するために、必要な能力・資質を向上させるためのSDを実施し、自律的なキャリア構築や学び直しを促進する施策を実施する。

### 現状と課題

#### 【現状】

・階層別研修を中心とした人材育成に留まっている為、さらなる資質や能力を向上させる施策が必要である。

#### 【課題】

・各業務の専門性×リーダーシップの素養×デジタルリテラシーの3つを併せ持つ人材育成をする必要がある。

| アクションプラン                          | 活動の概要                                       |   |   |                   |        |
|-----------------------------------|---|---|---|-------------------|--------|
|                                   | 2023年度                                      | 2024年度                                      | 2025年度                                      | 2026年度            | 2027年度 |
| 1) 新規採用者の育成システムを整備する。             | ・育成計画、制度の策定                                 | ・育成計画、育成制度の導入                               |   |                   |        |
| 2) 各課業務の専門性を向上させる施策を整備する。         | ・専門性向上のための外部研修や履修プログラムへの派遣、研修助成金の充実を図る      |   |   |                   |        |
| 3) 「共立リーダーシップ」を理解、発揮できるよう研修を実施する。 | ・リーダーシップ関連研修の実施                             |   |   |                   |        |
| 4) DXに対応できる人材を育成する。               | ・ITパスポート取得推奨<br>・AI・数理・データサイエンス講座の受講率を50%以上 | ・ITパスポート取得推奨<br>・AI・数理・データサイエンス講座の受講率を60%以上 | ・ITパスポート取得推奨<br>・AI・数理・データサイエンス講座の受講率を70%以上 | ・DX人材育成プログラム研修を実施 |        |
|                                   | ・DX人材の育成プログラム構築                             |   |   |                   |        |



評価指標⑤ 働きやすい事務局の職場づくりのため、組織調査等で課題を可視化し、解決方策を推進する。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・2022年度に実施した組織診断では前回調査時(2018年度)と比較して「職場」「人事制度」等の項目が全体的に改善された。

#### 【課題】

- ・組織診断の結果を踏まえて事務局内のコミュニケーション活性化や多様な働き方のニーズに対応すること等が課題である。

| アクションプラン                          | 活動の概要   |            |                              |                |          |
|-----------------------------------|---|------------|------------------------------|----------------|----------|
|                                   | 2023年度  | 2024年度     | 2025年度                       | 2026年度         | 2027年度   |
| 1) 職場のコミュニケーションの活性化を図る。           | ・施策の立案(事務局内の対話の機会の実施、日常的なサーベイ、360度評価、職場表彰制度等) |            |                              |                | ・組織診断の実施 |
| 2) 多様な働き方や事務効率化を実現する。             | ・在宅勤務制度の整備                                    | ・在宅勤務制度の導入 |                              |                |          |
|                                   | ・短時間勤務制度の見直し計画                                |            |                              | ・新たな短時間勤務制度の導入 |          |
|                                   | ・業務時間(残業時間)の適正化                               |            |                              |                |          |
|                                   | ・事務局 業務改善アイデアコンテスト(業務の効率化、情報化、環境対策等)          |            |                              |                |          |
| 3) 事務局の人員配置を最適化する                 | ・人事データベースの整備                                  |            | ・人材データの蓄積及び人材データに基づく配置の実施、検証 |                |          |
|                                   | ・自己申告書の活用、個人面談(キャリアアセスメント)の充実                 |            |                              | ・人事異動公募制の検討、導入 |          |
| 4) 教職員の健康診断やストレスチェックの受診率を100%にする。 | ・労働時間の管理や健康づくりに向けたサポート体制を充実                   |            |                              |                |          |

## V - 3. 施設設備

|                |   |         |                |
|----------------|---|---------|----------------|
| 長期目標           | 「リーダーシップの共立」を教育指針に掲げる学園にふさわしい、教育研究環境を整備し、新たな価値が創造されるキャンパスにする。   |         |                |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①中長期的な施設設備整備計画に基づき、計画的な修繕及び改修を実施する。<br>②神田一ツ橋キャンパスについて、ランドデザインに基づき再構築計画を推進する。<br>③八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、施設設備整備計画に基づき整備する。<br>④各研修センターについて、施設設備整備計画に基づき整備する。<br>⑤教育研究の質向上や教職員の業務効率化に資する情報インフラの整備・運用・改善を実施する。 |         |                |
| 主となる<br>委員会・会議 | 学園キャンパス整備検討委員会  | 主となる事務局 | 財務課<br>情報システム課 |

評価指標① 中長期的な施設設備整備計画に基づき、計画的な修繕及び改修を実施する。

### 現状と課題

- すでに法定耐用年数を過ぎた建物や更新時期を迎えた設備があるため、新たな教育計画に則した施設設備の整備を計画的に実行する必要がある。

| アクションプラン                                      | 活動の概要              |        |        |        |        |
|---|--------------------|--------|--------|--------|--------|
|   | 2023年度             | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 各キャンパスにおける長期修繕計画を5年間で総額38億円とし、毎年度計画的に実行する。 | ・新たな計画に則した整備計画案を立案 |        |        |        |        |

評価指標② 神田一ツ橋キャンパスについて、ランドデザインに基づき再構築計画を推進する。

### 現状と課題

- 第二期中期計画期間中にランドデザイン構想（案）を策定した。
- 今後はランドデザインに基づき再構築計画案を策定する必要がある。

| アクションプラン        | 活動の概要                     |        |        |        |        |
|-----------------|---------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                 | 2023年度                    | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 再構築計画を完成させる。 | ・整備計画、行政協議、基本設計、実施設計などを検討 |        |        |        |        |

評価指標③ 八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、施設設備整備計画に基づき整備する。

現状と課題

- ・八王子キャンパスは過剰な施設規模となっており、安全性及び快適性を高めるための施設設備整備計画を策定する必要がある。

| アクションプラン                 | 活動の概要   |        |               |        |        |
|--------------------------|---------|--------|---------------|--------|--------|
|                          | 2023年度  | 2024年度 | 2025年度        | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 10号館（講堂）客席天井の耐震化を進める。 | ・耐震化の実施 |        |               |        |        |
| 2) 11号館の解体と跡地利用計画を策定する。  | ・建物解体   |        | ・跡地利用計画の策定と実施 |        |        |

評価指標④ 各研修センターについて、施設設備整備計画に基づき整備する。

現状と課題

- ・研修センター軽井沢寮、河口湖寮については、利用者からの意見を考慮した施設設備を整備する必要がある。
- ・研修センター杉並寮については、公開講座での利用にとどまっている。今後の利用を検討する必要がある。

| アクションプラン                      | 活動の概要           |                    |                    |        |        |
|-------------------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------|--------|
|                               | 2023年度          | 2024年度             | 2025年度             | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 研修センター軽井沢寮と河口湖寮の利用計画を策定する。 | ・軽井沢寮の建物の耐震補強工事 |                    | ・軽井沢寮の施設整備計画の策定と実施 |        |        |
|                               |                 | ・河口湖寮の施設整備計画の策定と実施 |                    |        |        |
| 2) 研修センター杉並寮の利用計画を策定する。       | ・利用計画の検討と策定     |                    |                    |        |        |

評価指標⑤ 教育研究の質向上や教職員の業務効率化に資する情報インフラの整備・運用・改善を実施する。

現状と課題

- ・各設置校の情報化に関する整備計画が明確でないため、整備計画を策定する。
- ・現状の学園ネットワークは運用方法・回線速度・構成・費用など課題があるため、改善を行いつつ次期ネットワークの検討、導入を行う。
- ・学園全体のセキュリティに関わるシステム等の導入は進めているが、“人”に対する対応が不十分であるため、研修を中心に学園全体のセキュリティレベルをさらに向上させる。
- ・新法人システム再構築による DX や共立女子大学・共立女子短期大学の Kyoritsu 教学 DX 推進プランなどを掲げており、DX を加速する必要がある。

| アクションプラン                         | 活動の概要                    |                            |                |              |         |
|----------------------------------|--------------------------|----------------------------|----------------|--------------|---------|
|                                  | 2023 年度                  | 2024 年度                    | 2025 年度        | 2026 年度      | 2027 年度 |
| 1) 各校での整備計画を策定する。                | ・体制を含む整備計画の策定            | ・教育方針等に基づく整備計画の改善、見直し（継続）  |                |              |         |
| 2) 学園情報インフラとして最適化されたネットワークを構築する。 | ・ネットワークのあり方について検討、改善     | ・次期ネットワークの調査、検討            |                | ・次期ネットワークの導入 |         |
| 3) 学園全体のセキュリティレベルの向上を図る。         | ・セキュリティポリシー改定、セキュリティ教育実施 | ・適切なセキュリティ体制の運用、点検・評価・改善活動 |                |              |         |
| 4) 共立女子学園の DX を推進する。             | ・DX に関するシステム調査と対象業務の設定   | ・情報システム課内での部分導入            | ・特定部署への試験導入、検証 | ・各部署への展開     |         |

## V - 4. 法人ガバナンス

|                |   |         |       |
|----------------|---|---------|-------|
| 長期目標           | 永続的な発展と成長に向けてガバナンスを発揮する。                            |         |       |
| 中期計画<br>【評価指標】 | ①ステークホルダーの信頼を確保し、教育研究活動の一層の推進を図るため、最適なガバナンス体制を確立する。 |         |       |
| 主となる<br>委員会・会議 | 学園将来基本構想委員会   | 主となる事務局 | 総務企画課 |

評価指標① ステークホルダーの信頼を確保し、教育研究活動の一層の推進を図るため、最適なガバナンス体制を確立する。

### 現状と課題

- ・私立学校法の改正を踏まえて適切に対応する必要がある。

| アクションプラン                     | 活動の概要                      |        |        |        |        |
|------------------------------|----------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                              | 2023年度                     | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
| 1) 私立学校法の改正を踏まえた管理運営体制を確立する。 | ・私立学校法の改正を踏まえた法人の管理運営体制を構築 |        |        |        |        |



# 評估指標一覽表





# < I. 共立女子大学・共立女子短期大学【1/2】 >



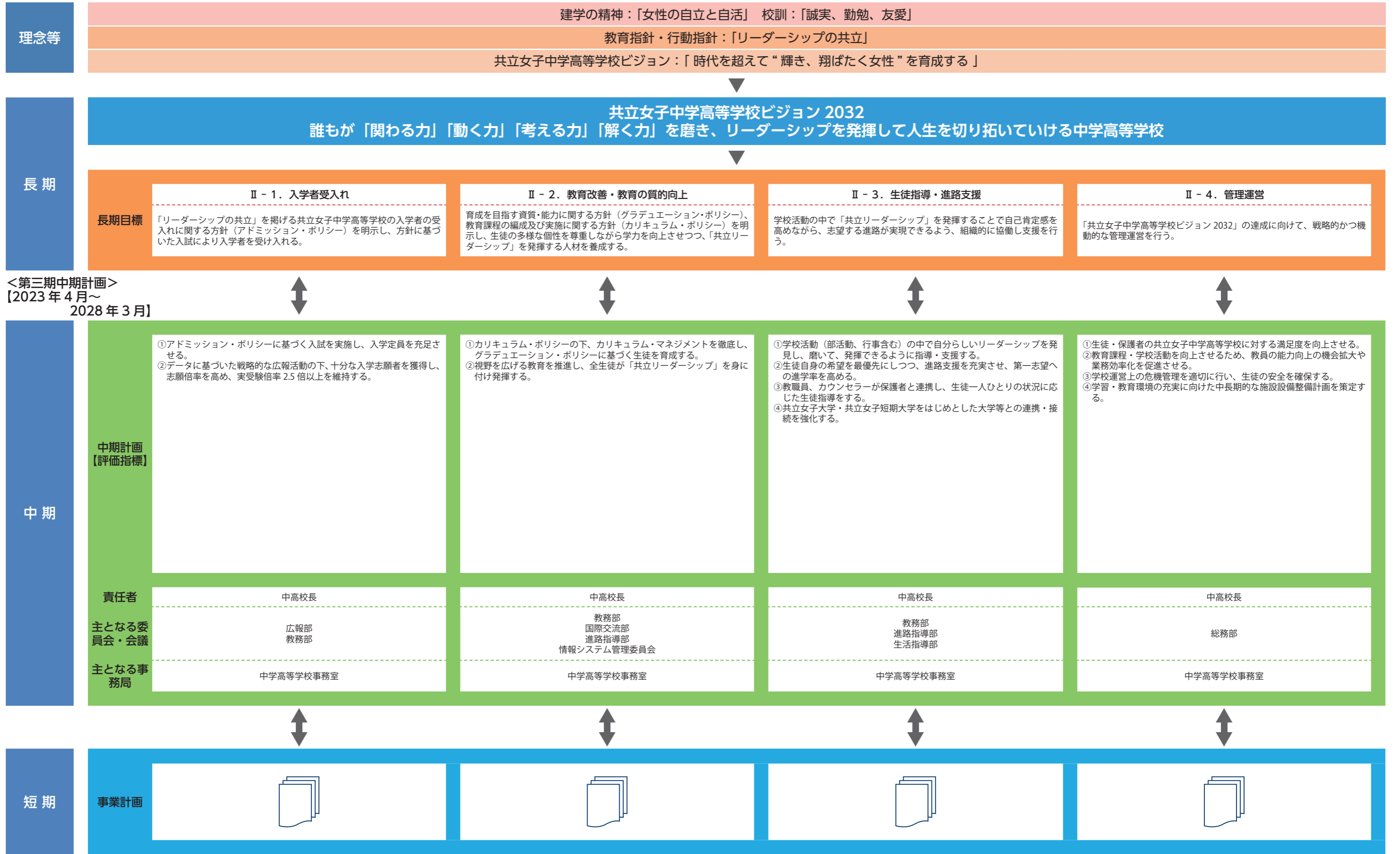
※評価指標は優先順位に応じて列記している。

# < I. 共立女子大学・共立女子短期大学【2/2】 >



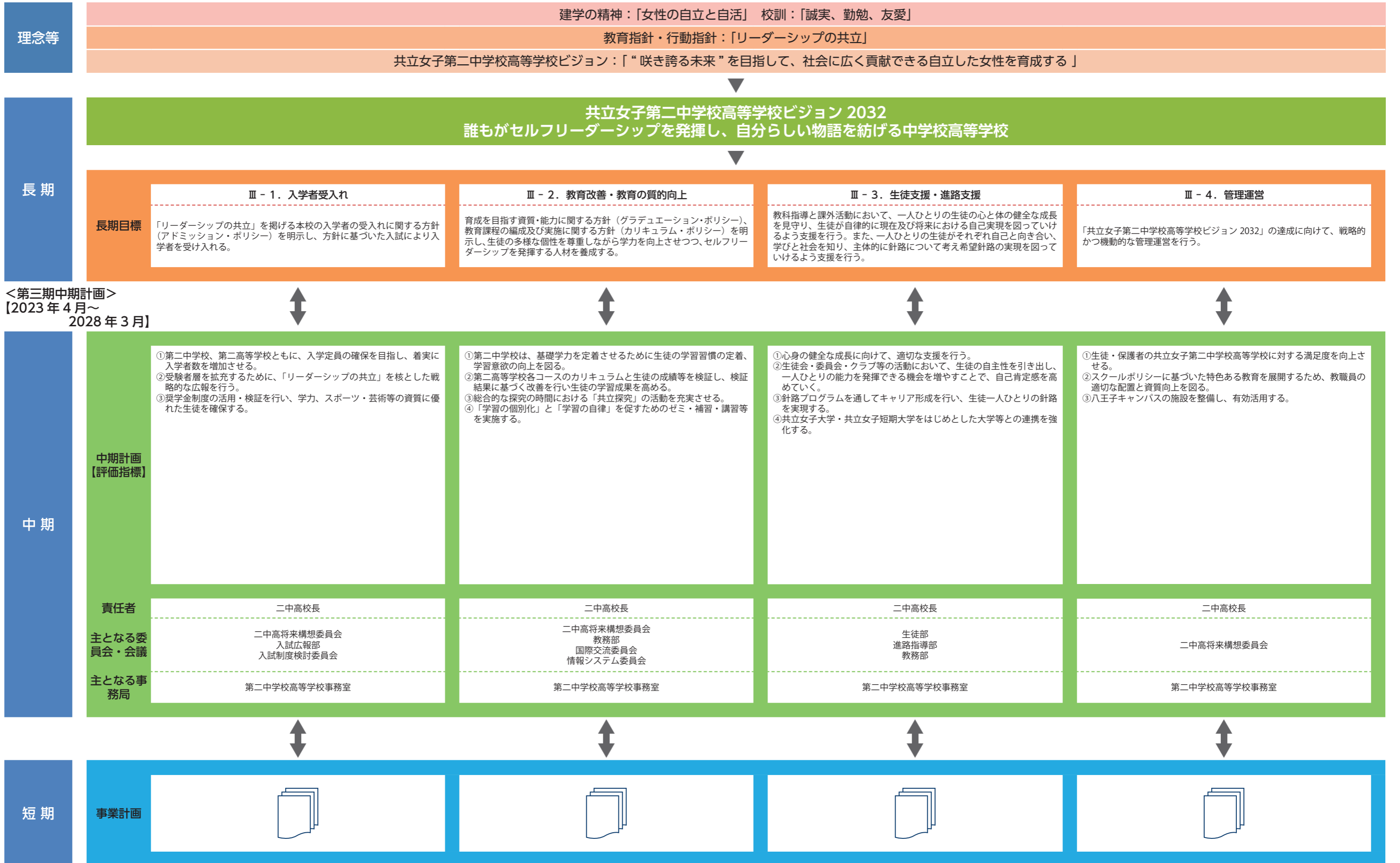
※評価指標は優先順位に応じて列記している。

## < II. 共立女子中学高等学校 >



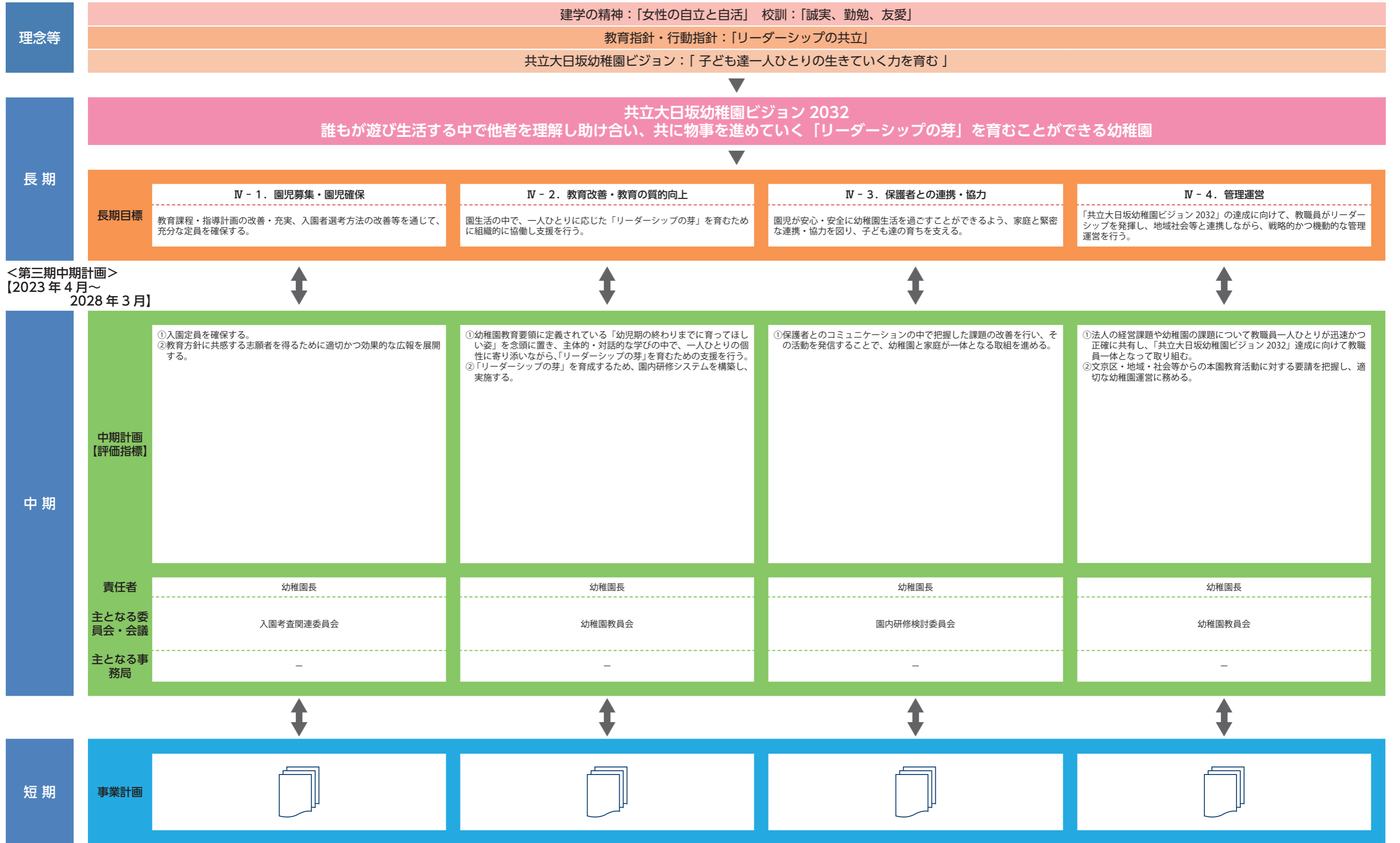
※評価指標は優先順位に応じて列記している。

## <Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校>



※評価指標は優先順位に応じて列記している。

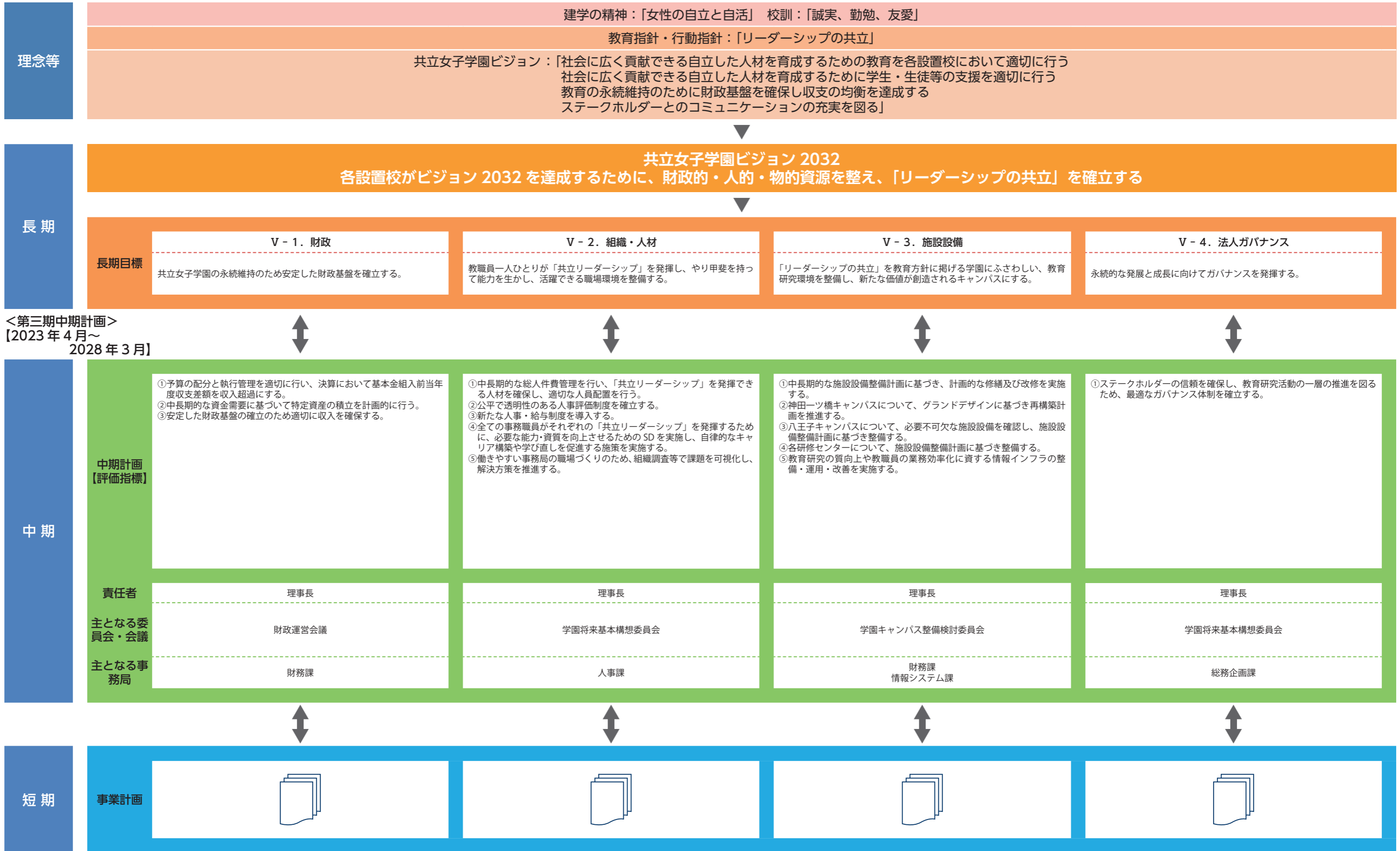
## <Ⅳ. 共立大日坂幼稚園>



※評価指標は優先順位に応じて列記している。



## < V. 共立女子学園 >



<第三期中期計画>  
【2023年4月～  
2028年3月】

※評価指標は優先順位に応じて列記している。



リーダーシップを  
発揮する人生か、  
そうでないか。

## リーダーシップの共立

共立女子大学  
共立女子短期大学  
共立女子中学高等学校  
共立女子第二中学校高等学校  
共立大日坂幼稚園